

「世界を救うため」と、若き領主に  
異世界へと召喚された主人公。

しかし、領主と暮らすうちに彼の本当の目的が  
明らかになる――

そもそも  
藤井舞花なんて  
人間は存在しない



とある領主の  
執着愛の果て



起きて

レア

クレア...



クレア



このまま  
目覚めなかつたら  
どうしようかと  
思った

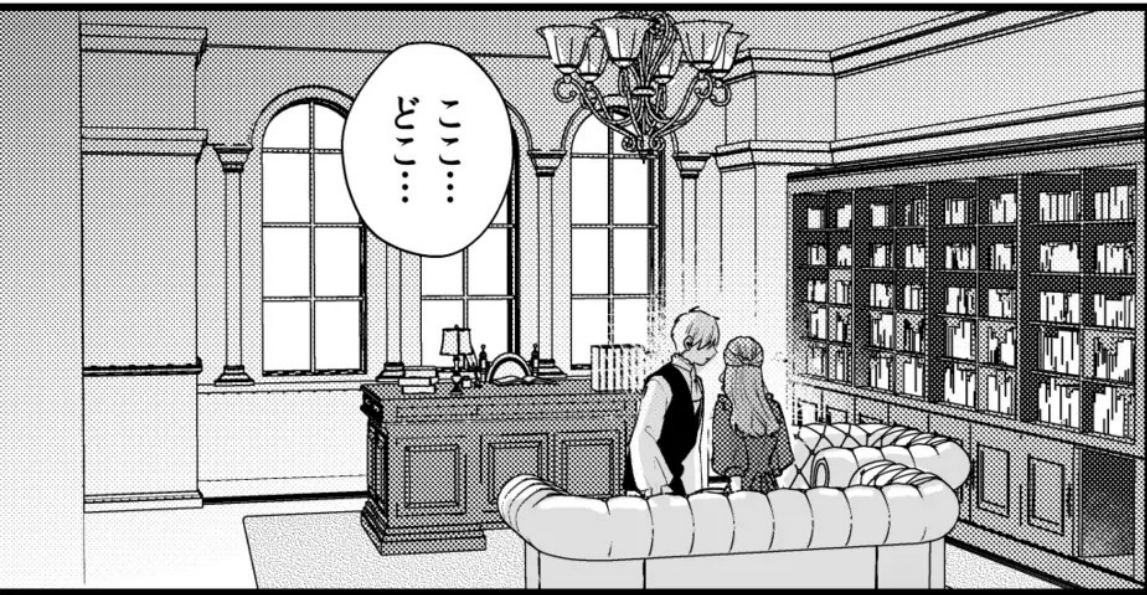


ずっと君を  
待っていたよ

ハッ



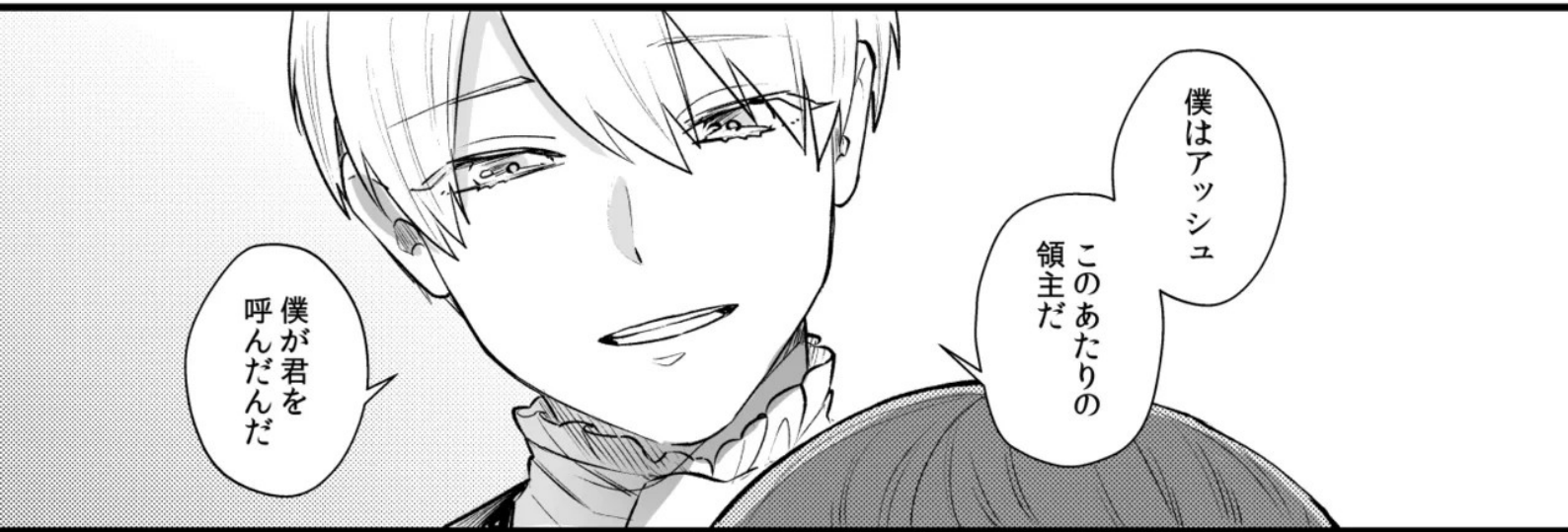
海みたいな  
青



ジュジュ...



あなたは誰...?



僕が君を呼んだんだ

このあたりの領主だ

僕はアッシュ



君はこの世界の救世主だよ

フツ...

フツ...

つまり私が現れた場所が川の真ん中で3日間目が覚めなかったと...

もう少し上手くいくはずだったんだけど...

僕の力不足で危ない目に遭わせてしまったすまない

君の持ち物は汚れてしまったから今綺麗にしてもらっているところだ

バイト帰り駅で電車を待つていたはずなのに

気が付くと知らない場所にいた

そ、そうですね...

それに私に何かできるとも思えないですし...

聞きたい事があれば何でも聞いて

え...

この世界ってどんな所なんですか？

どんな所か？  
例えば？

突然こんなところに呼ばれてびっくりしたよね

魔法があるとか...？  
あと変わった動物がいたり...

生き物は君達の  
世界と変わらないと  
思う

魔法は伝承の  
中の存在だね

でも  
錬金術なら  
あるよ

いや  
あった…かな

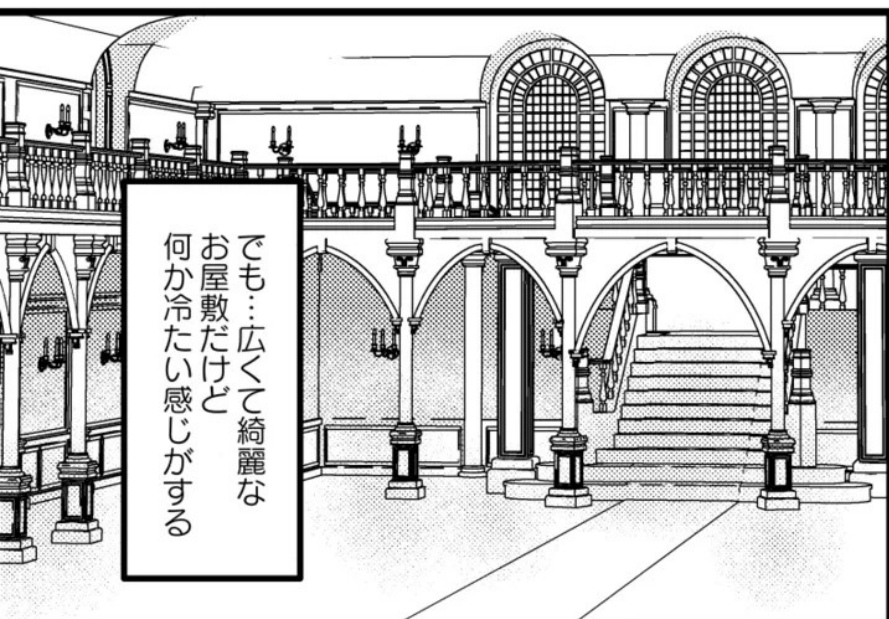
あった…？

錬金術は今は法で  
禁じられているから

表向きにはない  
ことになっているね

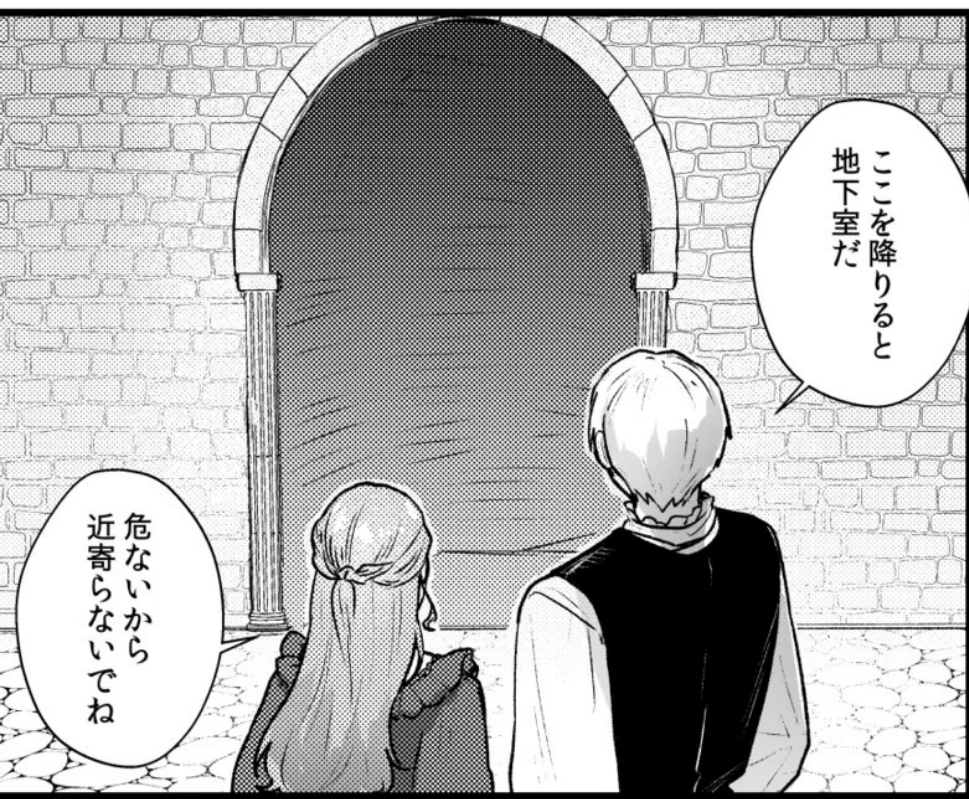
表向きですか…

まあ、コッソリ  
錬金術を行う人も  
いるってことだよ





今この屋敷には  
僕だけなんだ



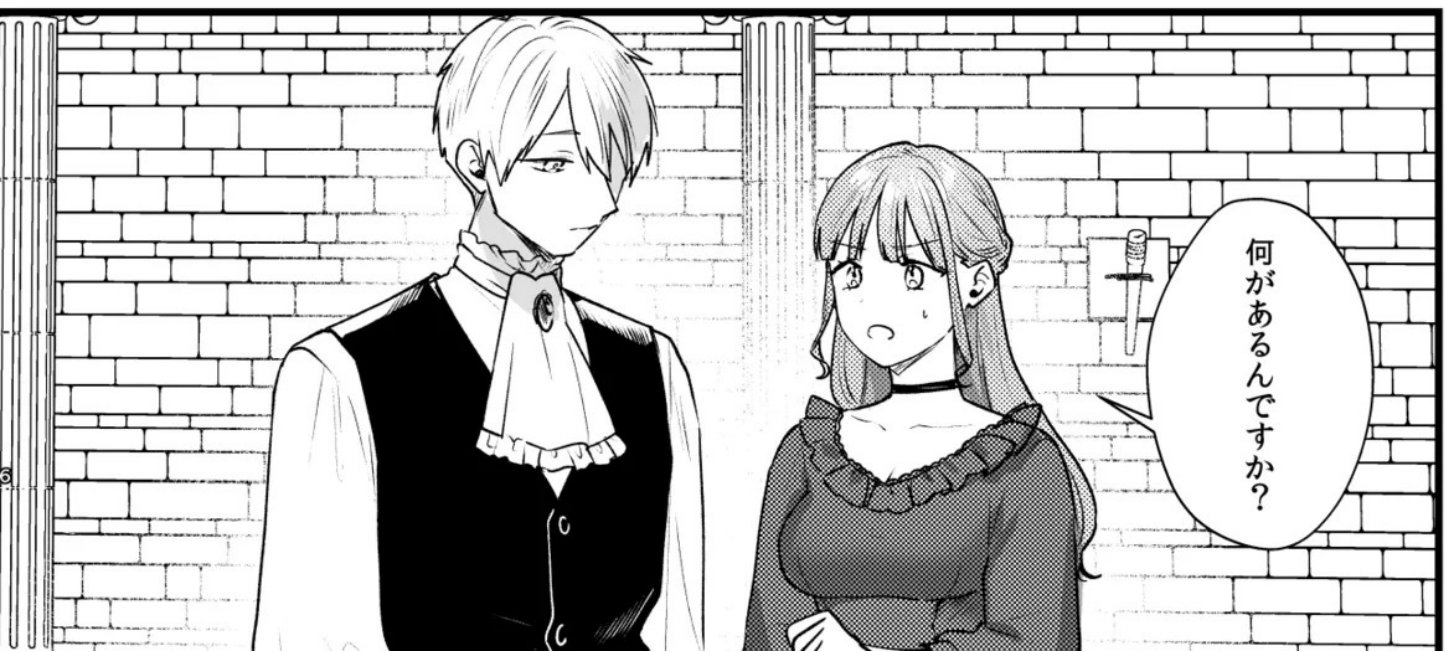
ここを降りると  
地下室だ

危ないから  
近寄らないでね



使用人がいなくて  
少し不便利かも  
しれないけど

普通に生活する  
分には問題  
ないと思う



何があるんですか？



そんな  
嘘ですよね…?

昔拷問死した  
兵士の亡霊が  
出るとか…



冗談はさておき  
暗いし古く  
なってるから  
危ないんだ

だから入っちゃ  
ダメだよ

はい…



さあ？  
どうかな



ここが君の部屋

必要なものが  
あれば何でも言っ  
て



食事ができたら  
一緒に食べよう

置いてあるものも  
自由に使ってくれ

屋敷内は自由に  
出歩いてもらって  
構わないし



ありがとう  
ございます！

こんな豪華な部屋  
まで貰って

異世界とか救世主とか  
未だに夢を見ているみたい

お屋敷に来て一月程が  
過ぎただろうか

舞花  
お茶でも  
どう？

クッキーも  
もらったんだ

毎日、夢みたい  
に素敵な生活を  
送っている



この  
クッキー  
おいしい…!

それは  
よかった



私の顔に  
何かついてますか？

誰かと  
ティータイムなんて  
久々で…

最近はこの屋敷で  
ずっと一人だったし  
舞花が来てくれて  
毎日楽しいよ



でもこんな事  
していいのかなっ  
て思ってます

私、何か目的があつて  
呼ばれたんですよ？



コト...

それはまだ時が  
来ていないから  
考えなくていい



今は君がここに  
居てくれるだけで  
いいんだ



かあ...

手...

そ、そんな...



舞花はかわいいいな  
素直でわかりやすい

もう、私を  
からかって  
楽しいですか？



からかっている  
わけじゃない



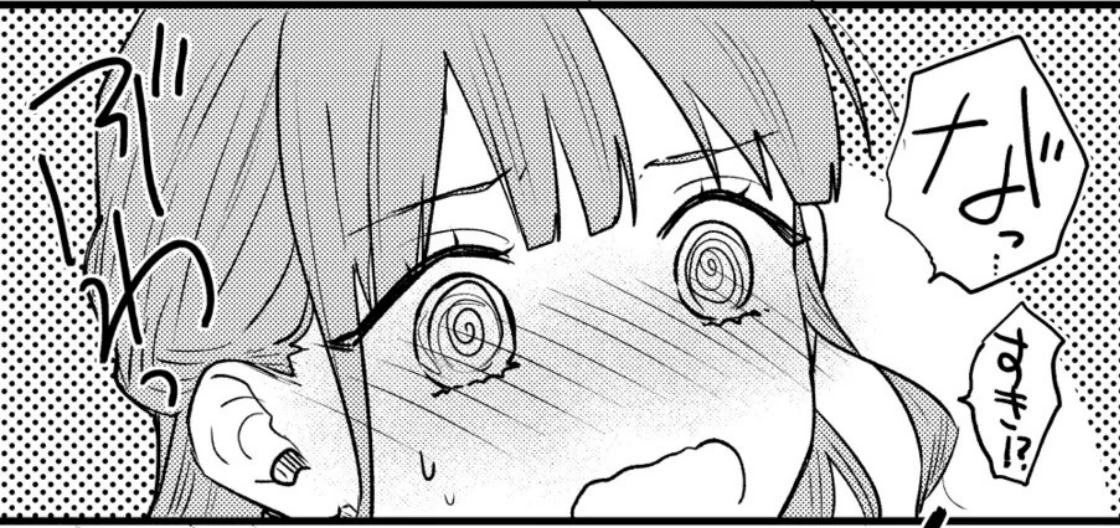


僕は舞花の事が好きだ



え...?

僕は舞花に惹かれている



舞花!?

ごめんなさい...! 失礼します!





私の事が好き？



あのまま  
あそこにいるなんて  
耐えられなかった



思わず逃げて  
きちゃった…



…私も  
アッシュさんに  
惹かれてる…



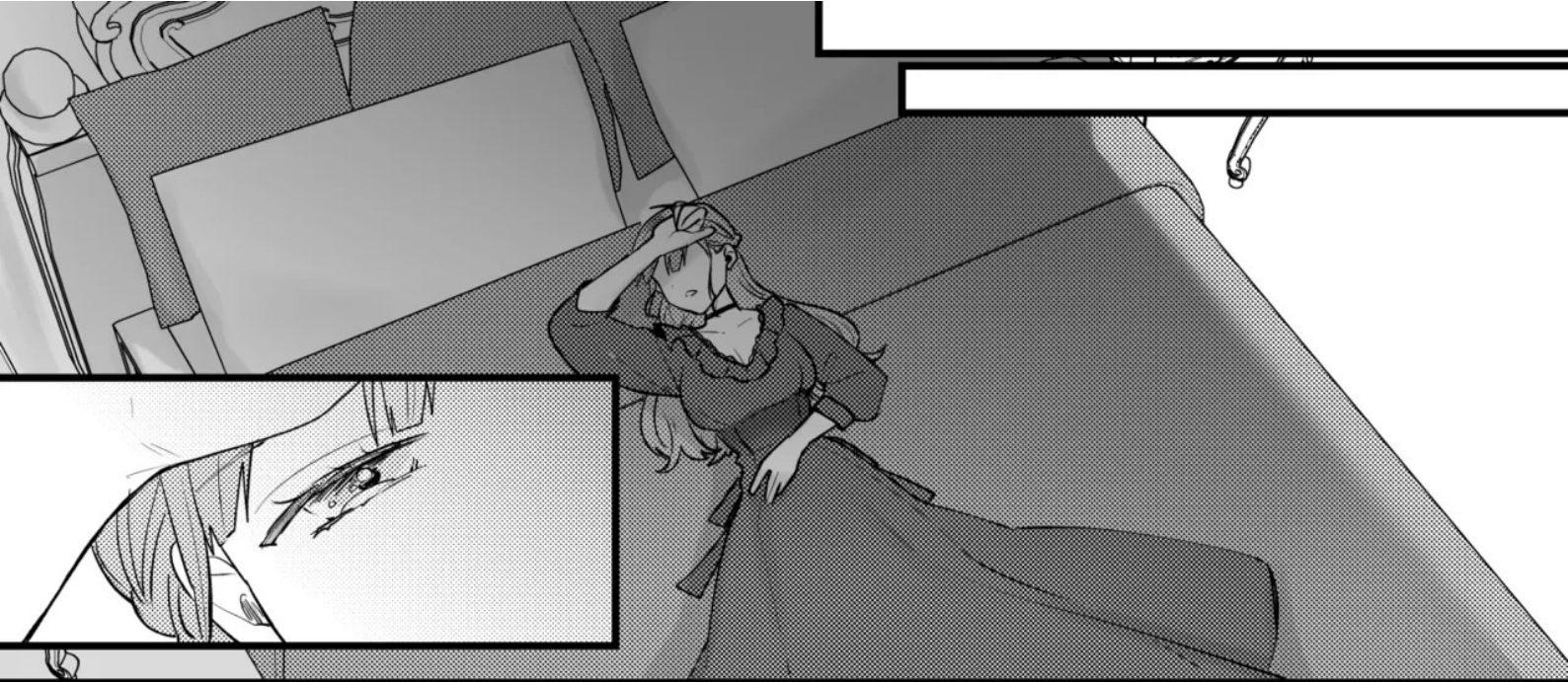
いつも笑顔で  
優しくて

この世界に来た  
ばかりの私の事も  
気遣ってくれて

これ以上ないくらい  
大切にしてくれる

そのうち元の世界に  
帰るんだから

あの人を  
好きになっちゃって  
仕方ないのに



謝らないで  
舞花が嫌ならもう  
あんな事は  
言わないから

私こそ  
失礼なことを  
してしまいました  
ごめんなさい…



昼間は  
驚かせて  
すまなかった

ガッ…



舞花  
夕食を持ってきたよ

は、はいっ



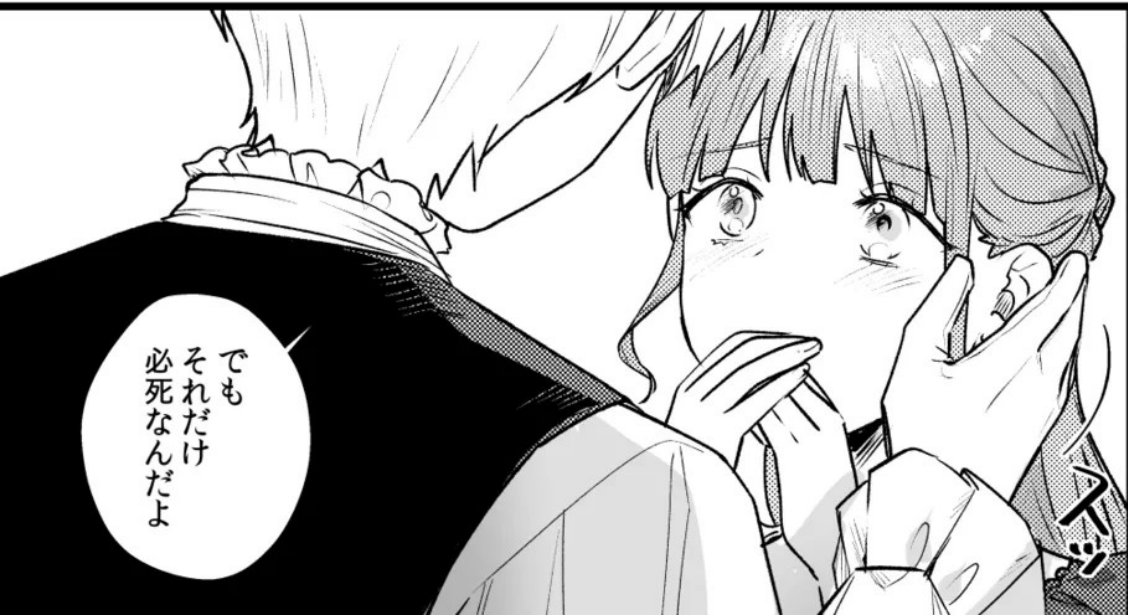
そんな  
寂しそうな顔  
しないでよ

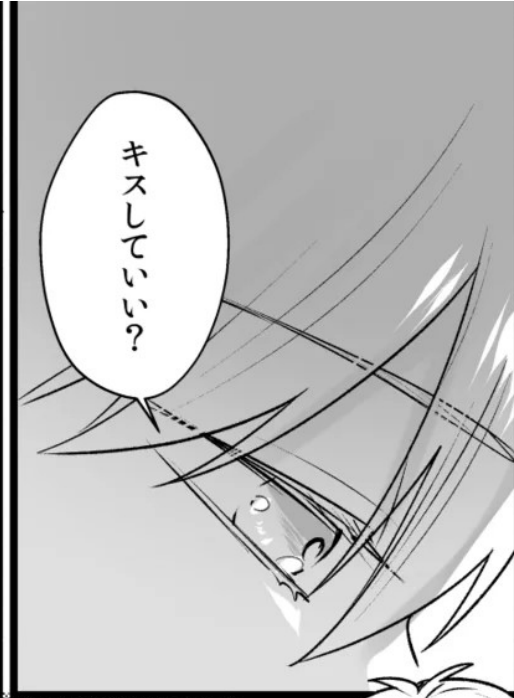
友人って…



だから今まで通り  
友人として  
接して欲しい





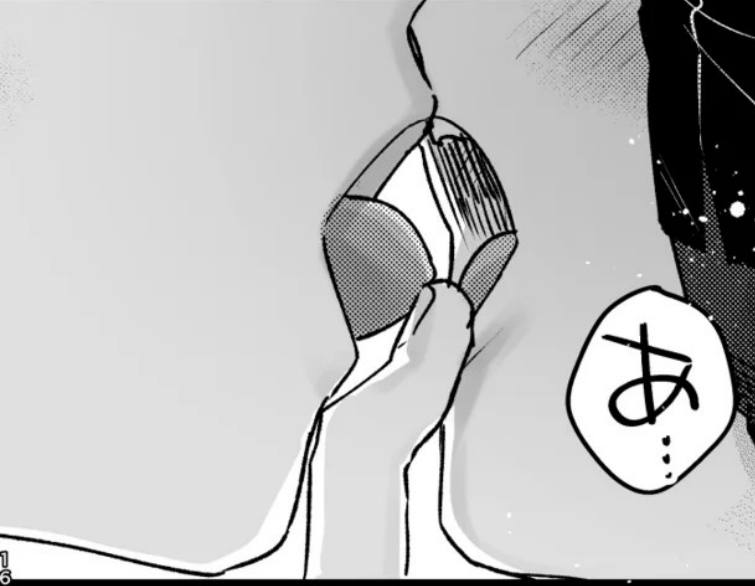


キスしていい？

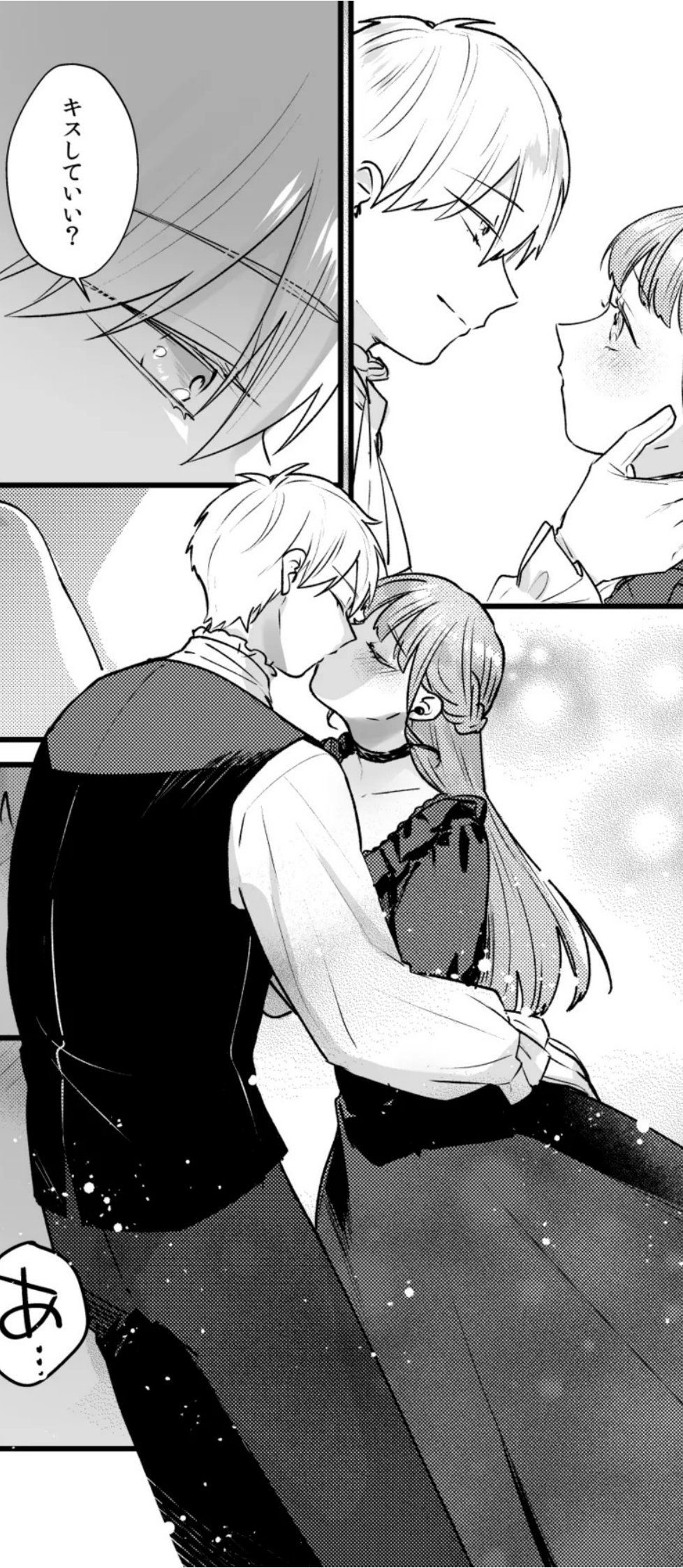


…あはっ

キス

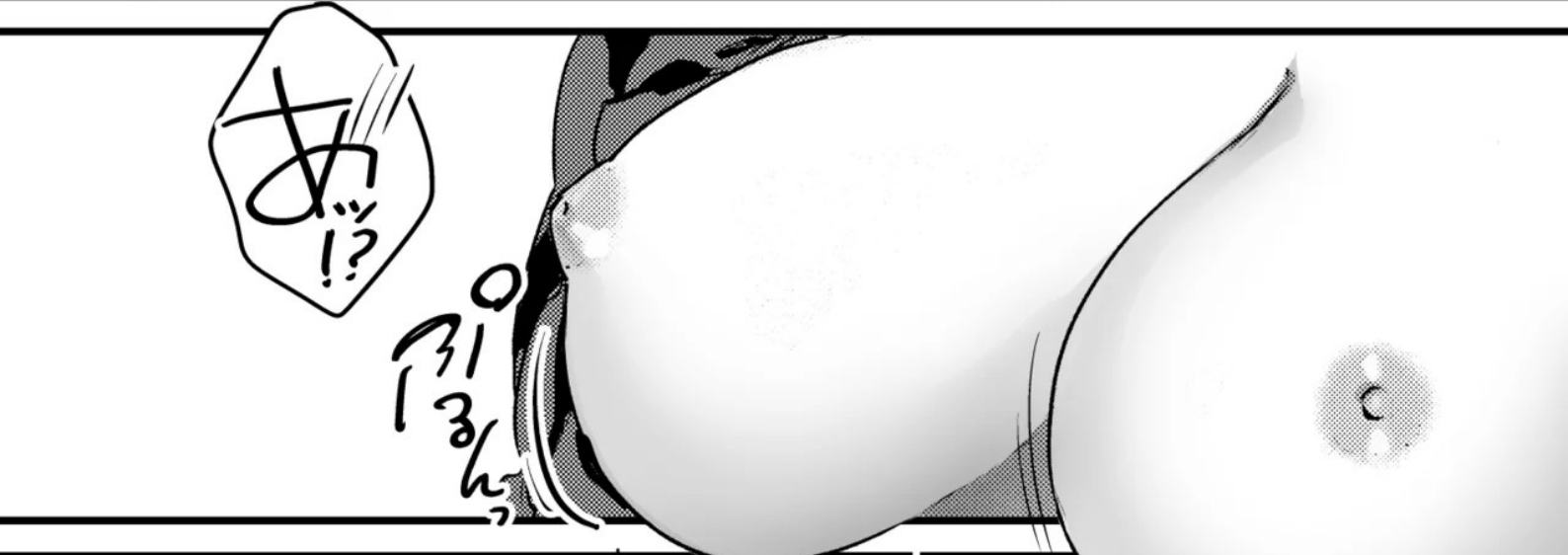


あ…





頭痺れる...



あッ!?

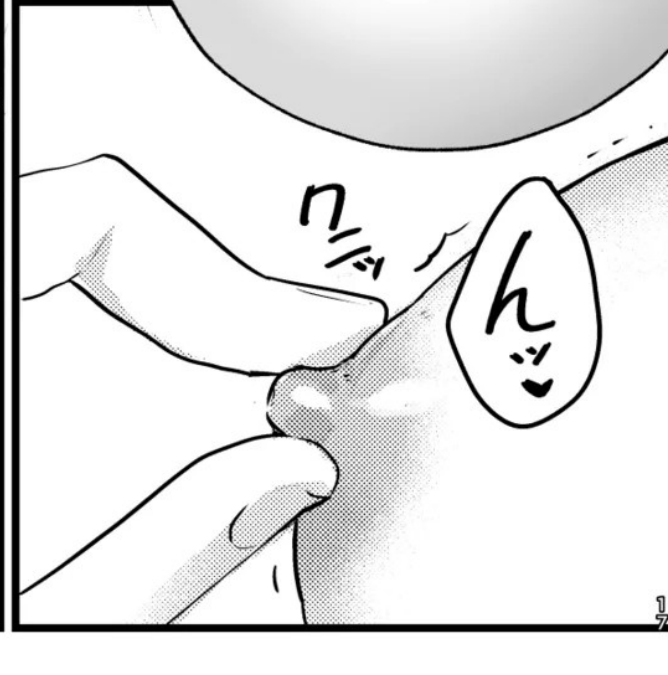
ひひひひひ



あッ...

ん...

チビッ



ん...

ん...







君が  
気持ちよく  
なってくれたなら  
嬉しいよ

糸引いてる…

舞花ともっと  
深く繋がりたい

ズン…



焦らされてるー

じわる...

ごめん、君の  
反応がかわいくて  
つい

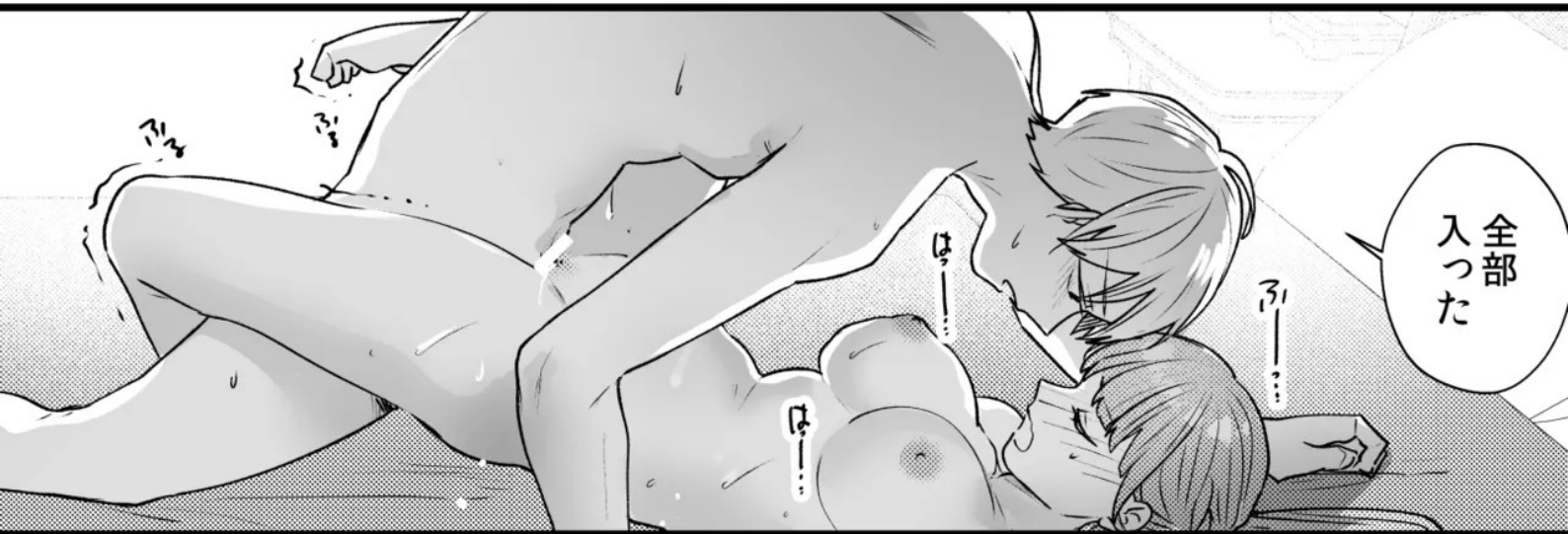
挿入れるよ

ん...  
おっかしい...

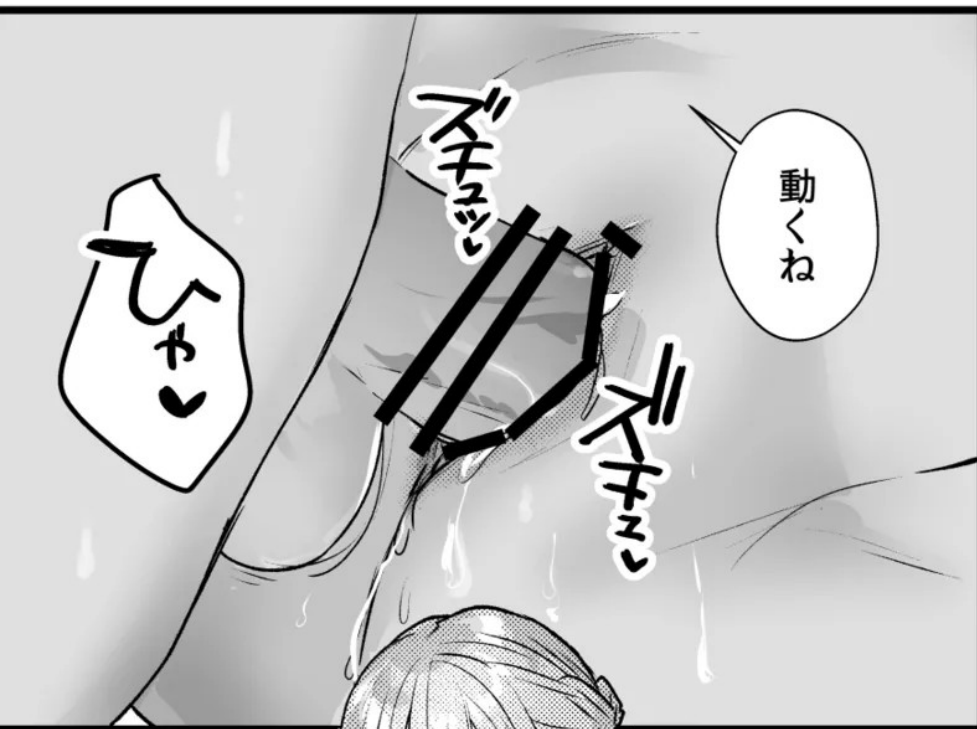
ズ  
ズ  
ズ

アッ  
アッ  
アッ





全部  
入った



動くね

ズキッ  
ズキッ

ふ



舞花と  
繋がれて  
嬉しいよ

キーン

ふ



ふんっ

キーン...  
ニン...  
ニン...

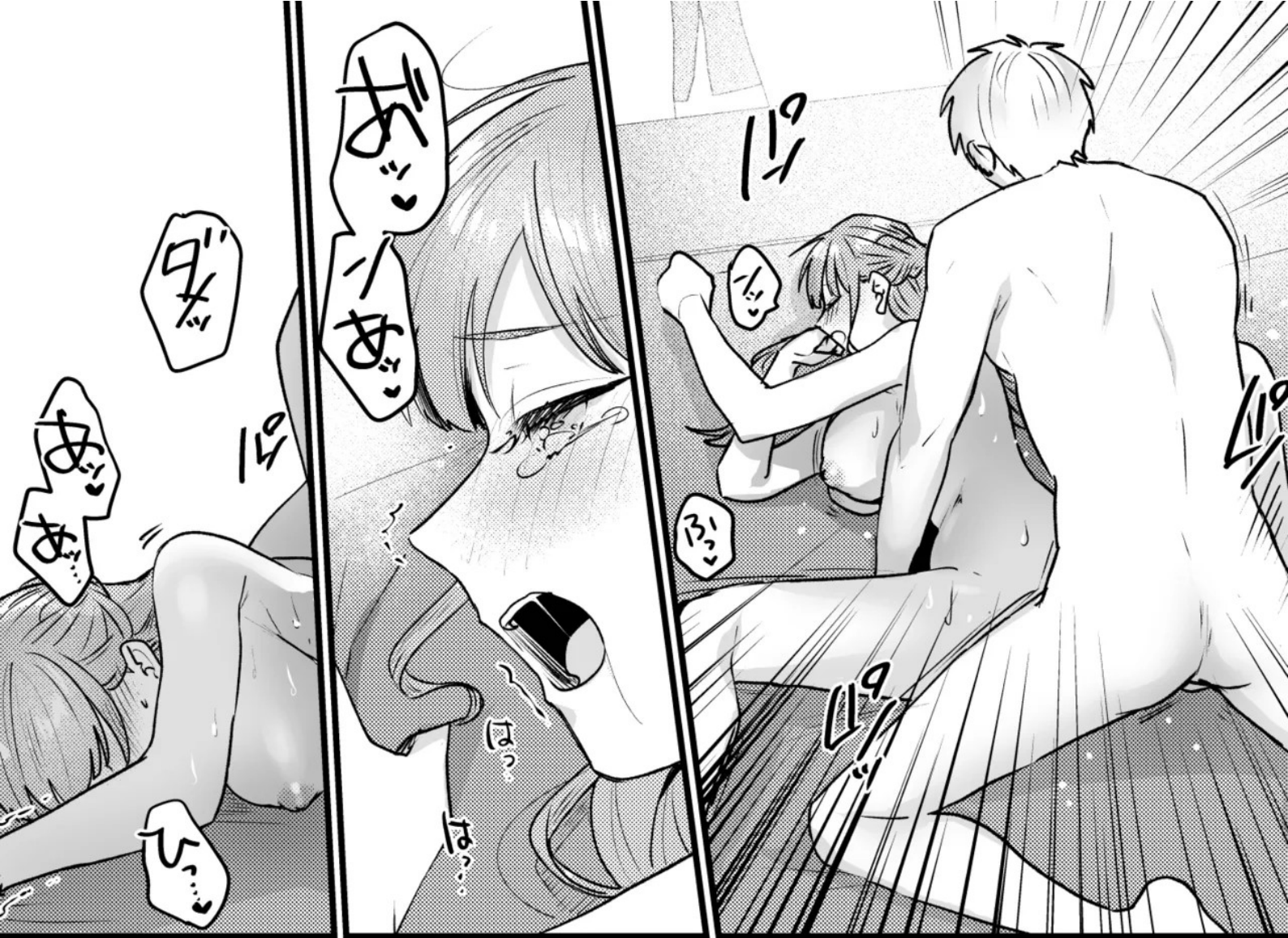
あー

ふん

ふん

ふん







私もですわ



愛しん



アッシユ

アッシユ  
アッシユ  
アッシユ



アッシユ

アッシユ



アッシユ

今の何...?

?

?

?

?

アッシユ





私…  
一瞬意識  
飛んでた…？



Love



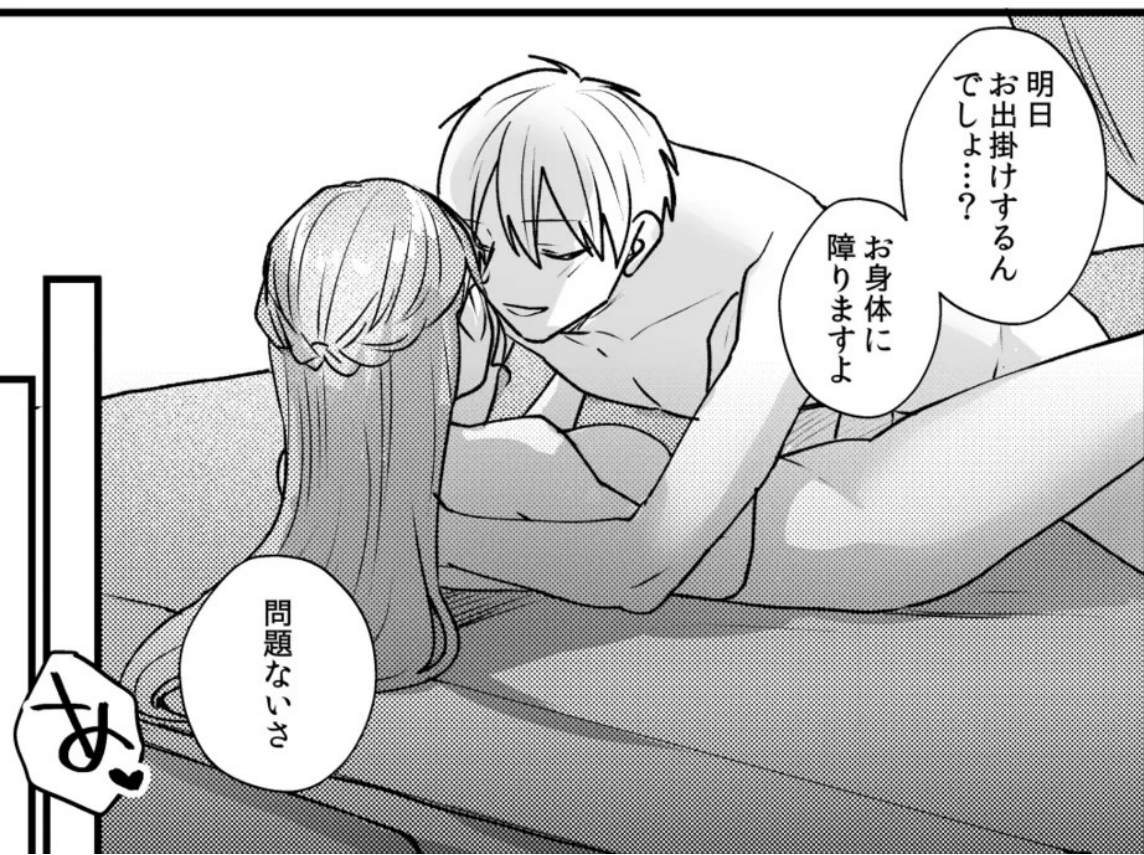
は！

は！



まだ足りない

舞花



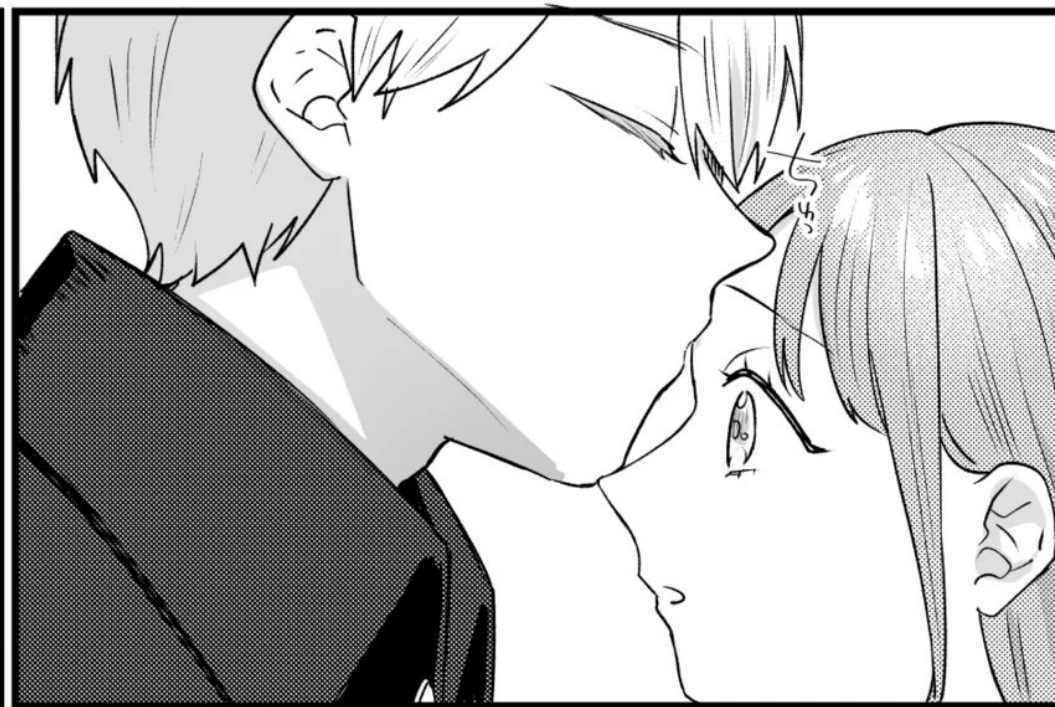
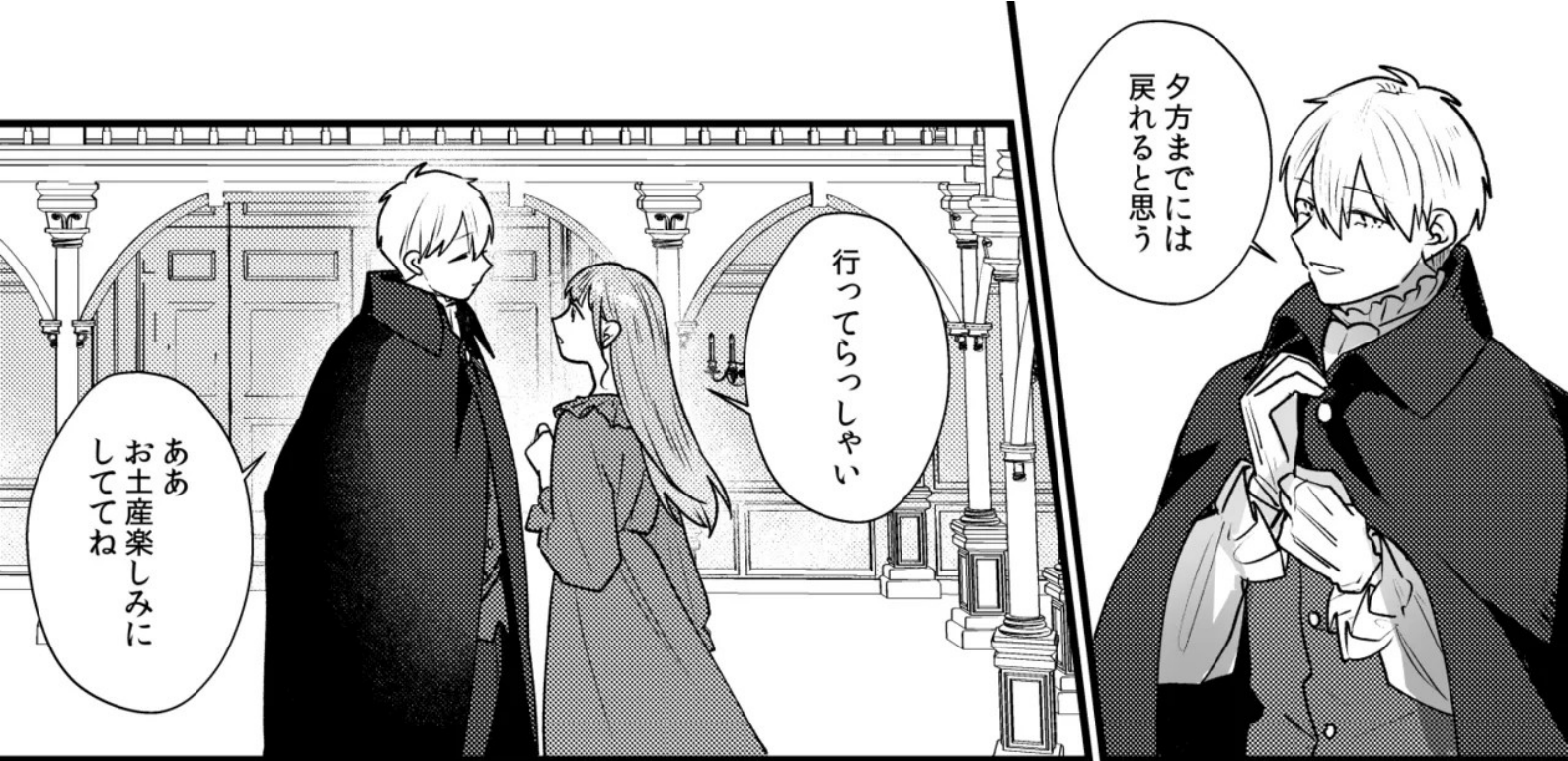
明日  
お出掛けするん  
でしょ…？

お身体に  
障りますよ

問題ないさ









ここに来てから  
お世話に  
なりっぱなしだし  
お掃除でもしよう！



考えても  
仕方ないな



あれは  
何だったんだろう？

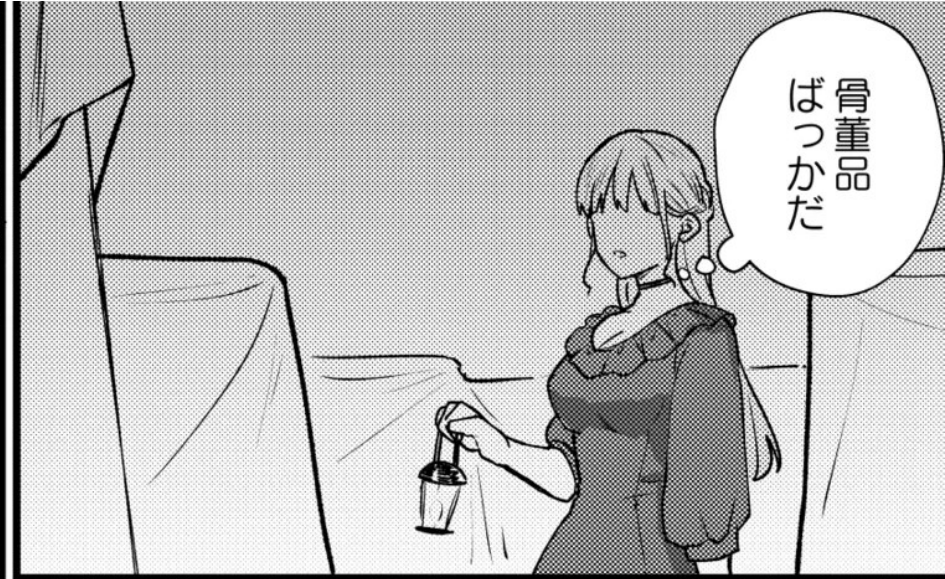
既視感はあるのに  
思い出せない

愛してる



掃除用具  
ここにあるかな？

キ  
イ

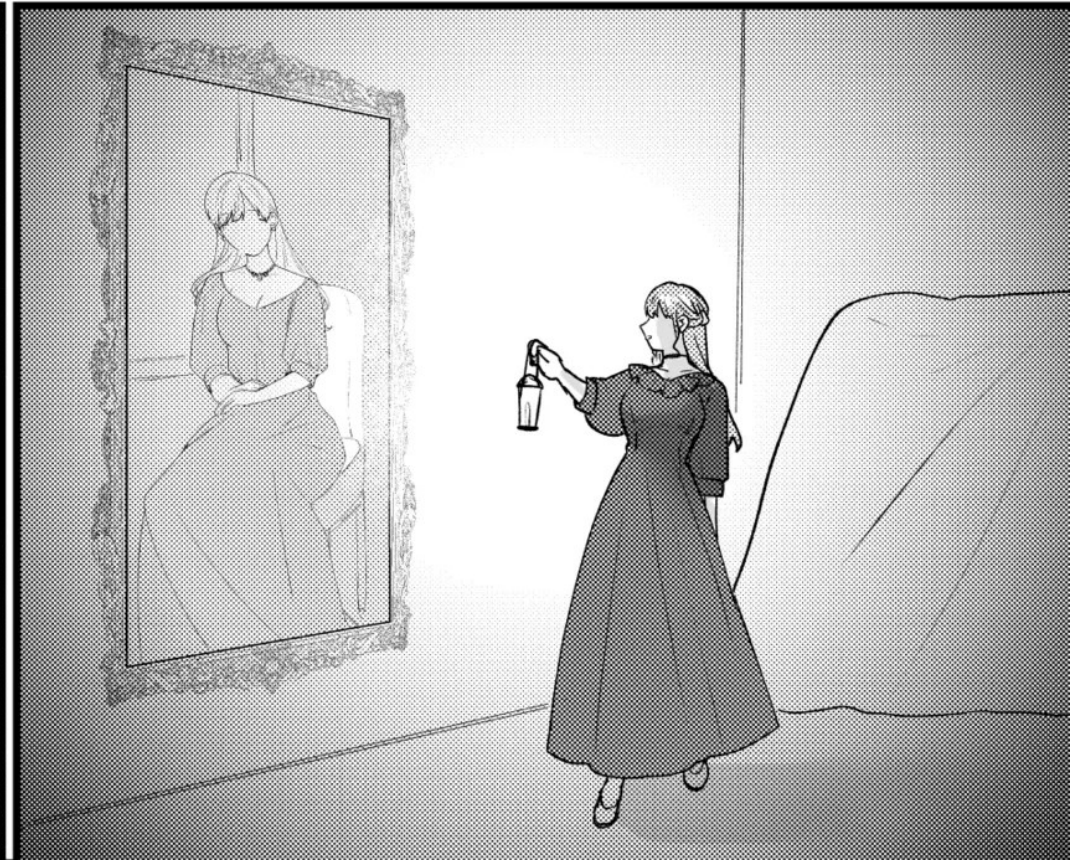


骨董品  
ばっかだ



綺麗な人…

ちよつと  
アッシュさんに  
似てる—



へえ  
雰囲気  
があなたに似てる

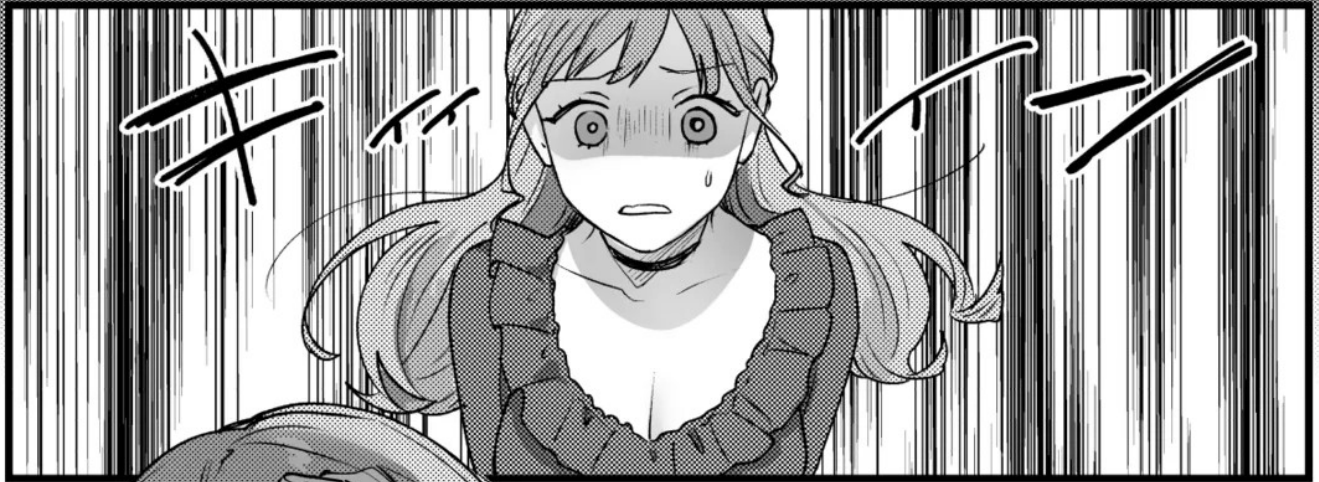


この絵の人綺麗ね

おばあ様の若い頃  
なんだって



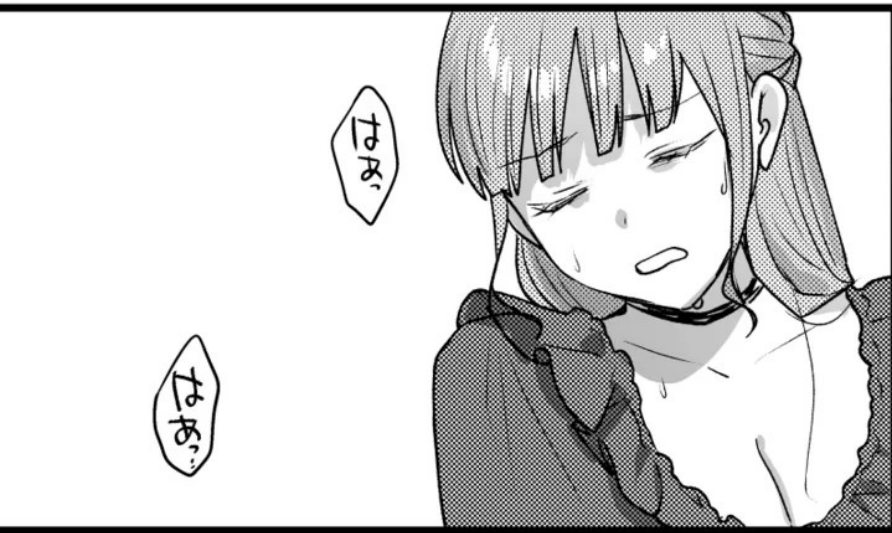
海みたいな瞳は  
おばあ様譲りなのね



また…

頭が痛い

この記憶  
なんなの…?



私は、以前ここに  
居たことがある…？



頭が割れそう…

ズキ

はあ

うあ

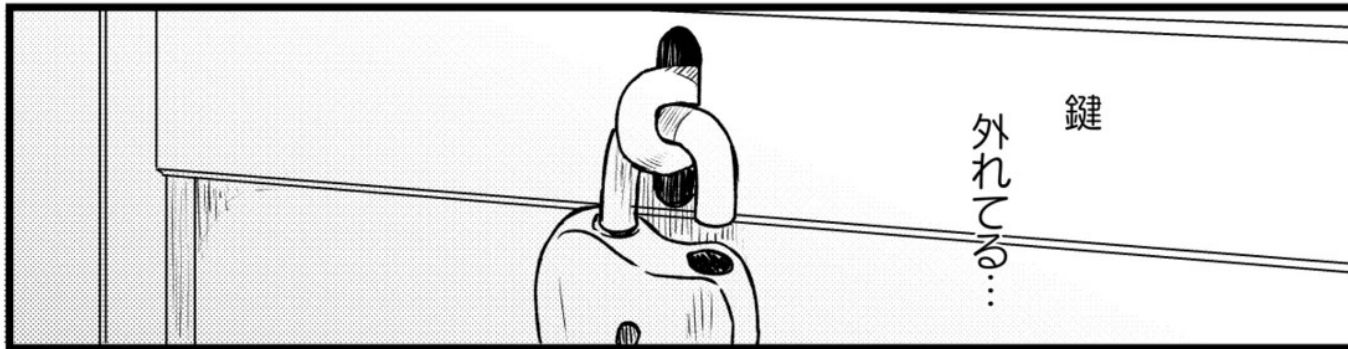
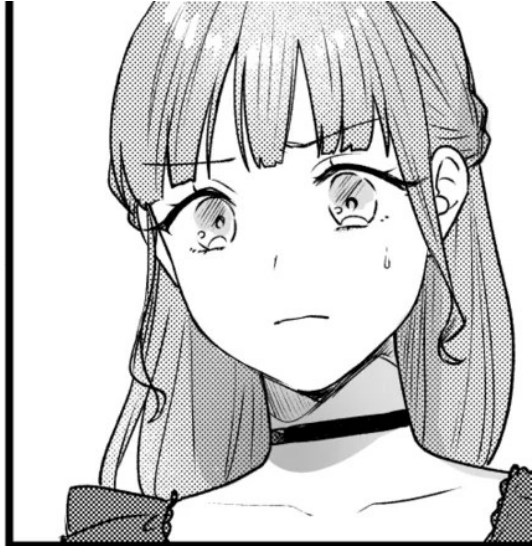
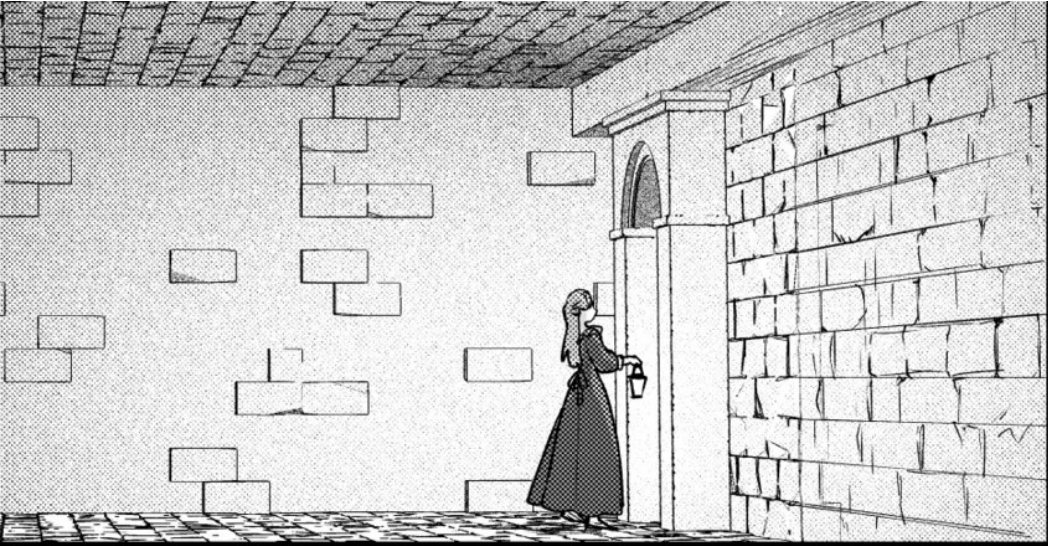
ズキ



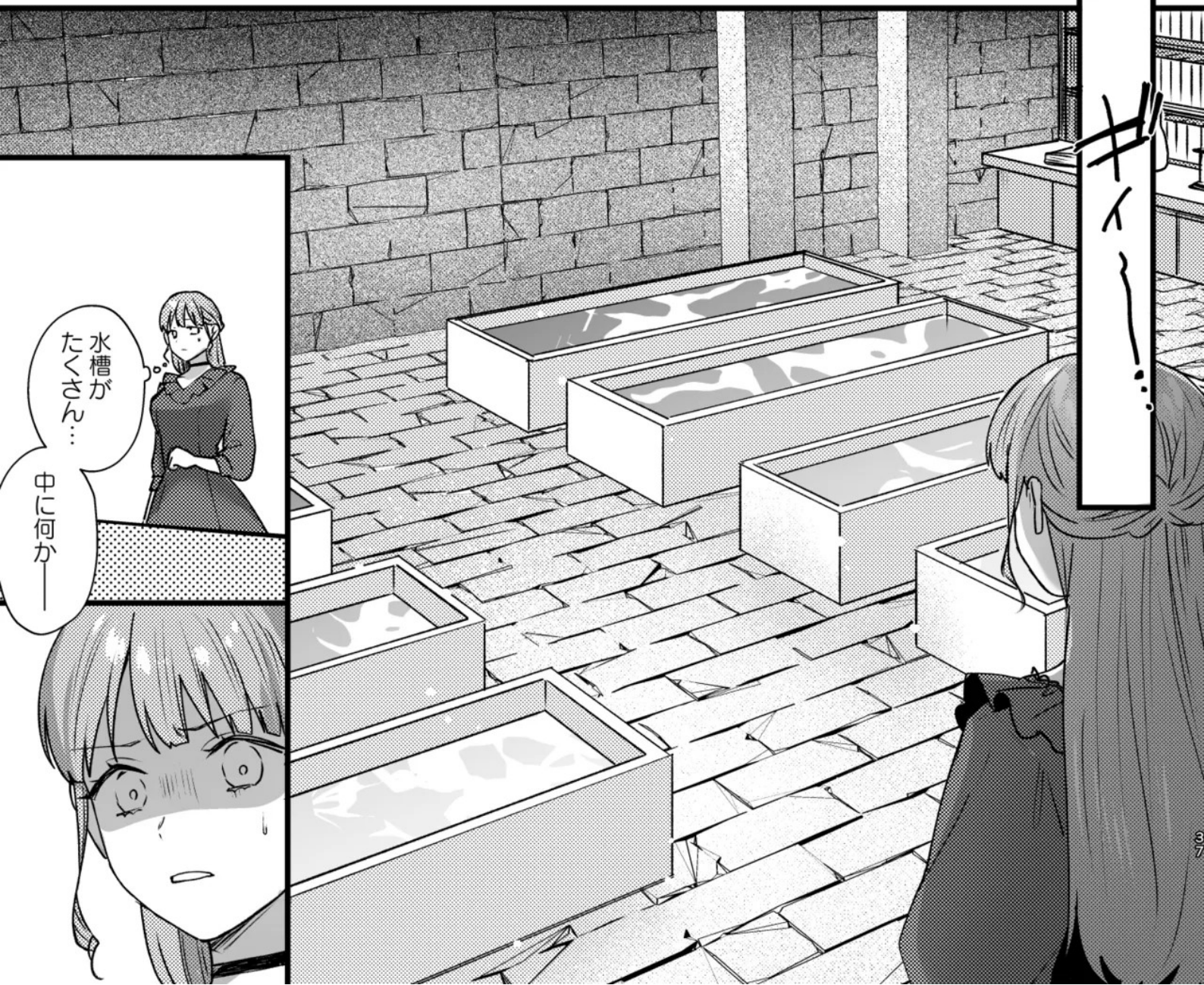
フツ…フツ…



地下室にほ  
何かある…

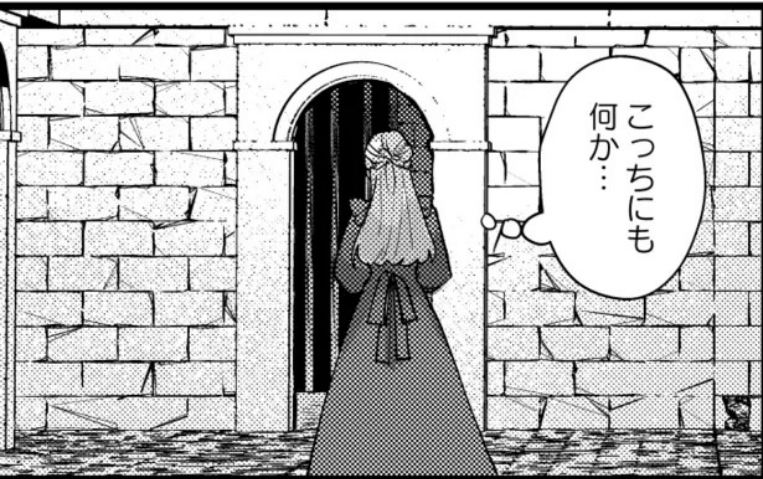
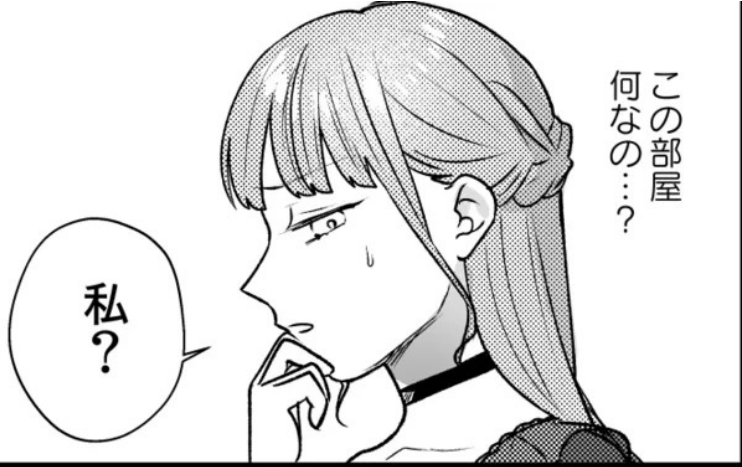


鍵  
外れてる…



水槽が  
たくさん…

中に何か—



何で地下に  
こんなものが...

近づくなつて  
言ったのに

舞花  
なんでここに  
来たの？

か、鍵が...  
外れていて...

アッシュユさん!?

そうか  
うっかりしていた



もしかして私を試したんですか…？

外出もわざと…？

なんで…



うっかり…？



怖がらせてしまつてすまない

でも

今回は上手くいきそうなんだ



ごめんね



もう失敗したくない



昨日はあんなに  
愛し合ったのに  
酷いな

でも  
身体はこんなに  
僕を求めてくれている

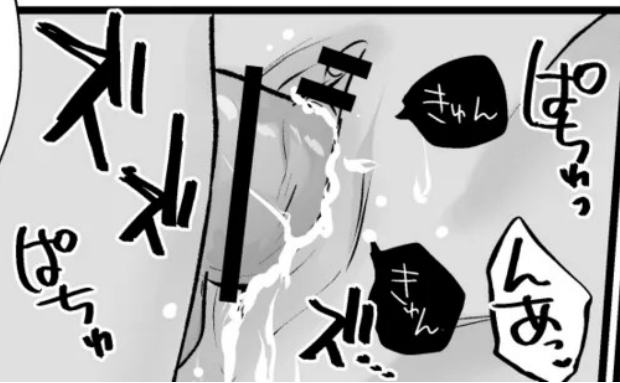


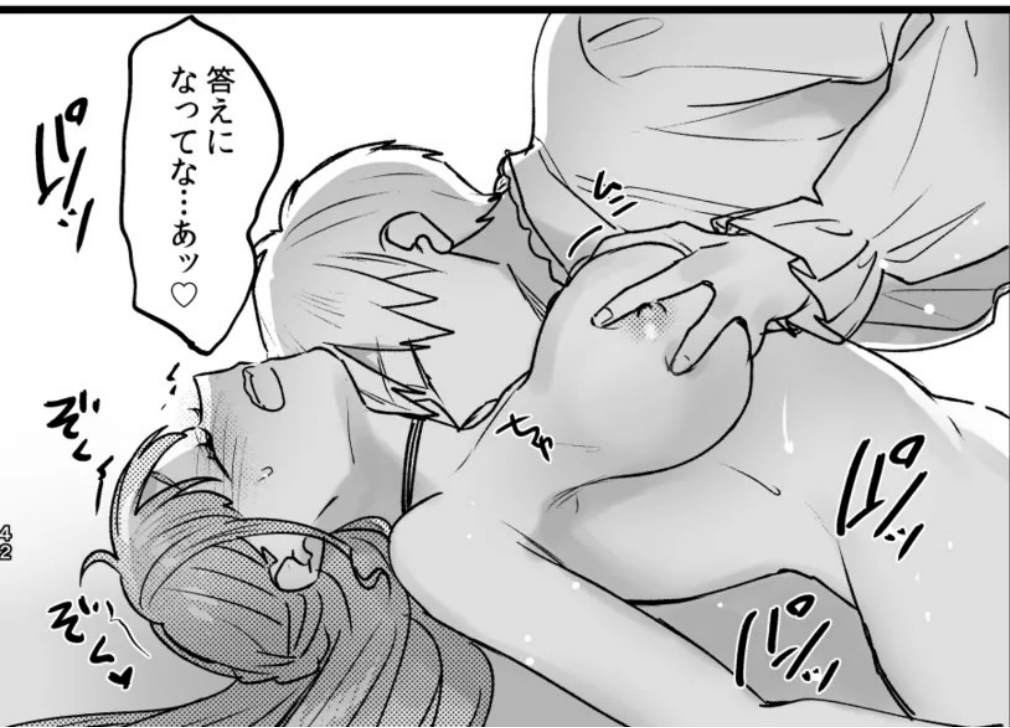
なに...!?

気が付いた?



や、やだ!  
やめて...!





あ…あたまが  
真っ白になって…

言葉にならない

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

やっは

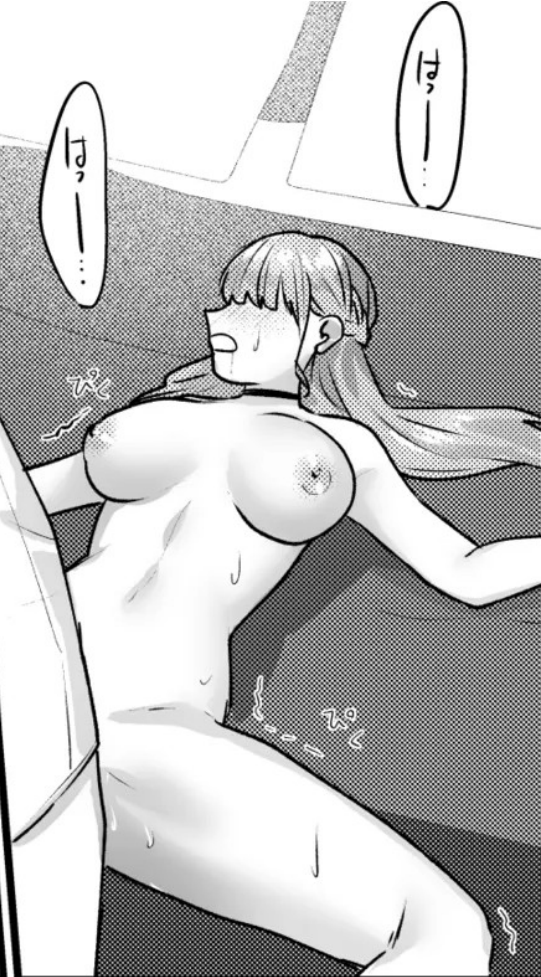
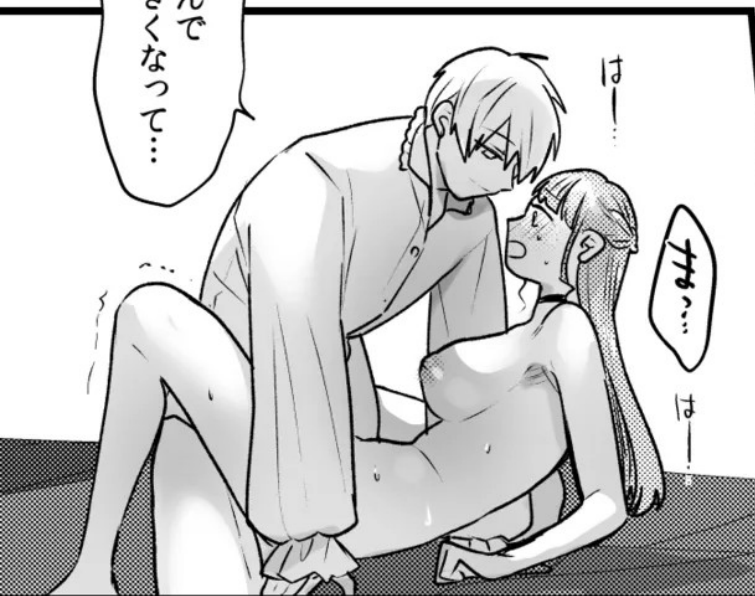
やっは

やっは





な...なんで  
また大きくなって...

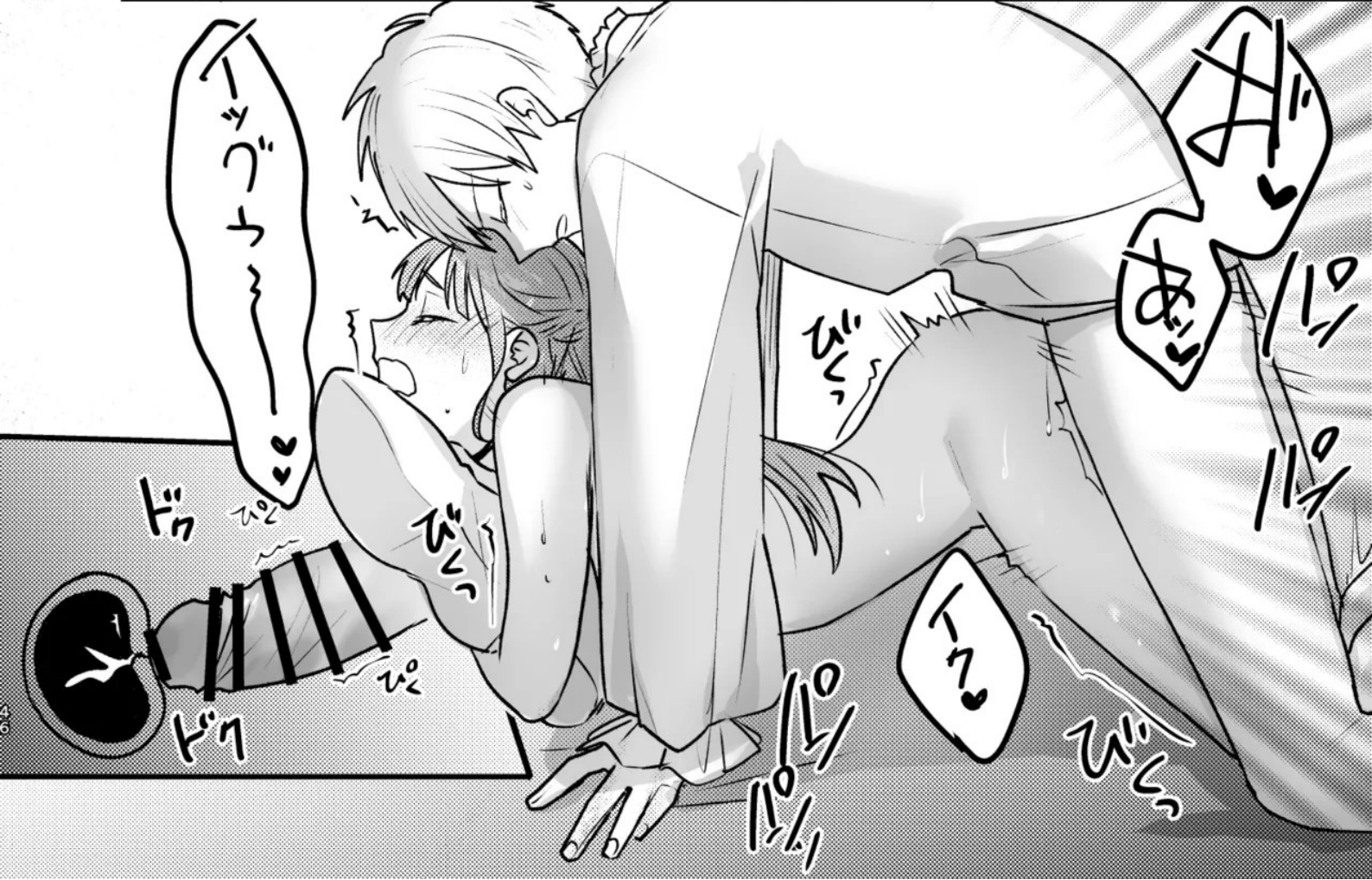


舞花が  
かわいいから

こんなんじや  
全然足りないよ









やっぱり  
舞花の顔  
見ながらいいな



んんん

めい

んんん

めい

んんん

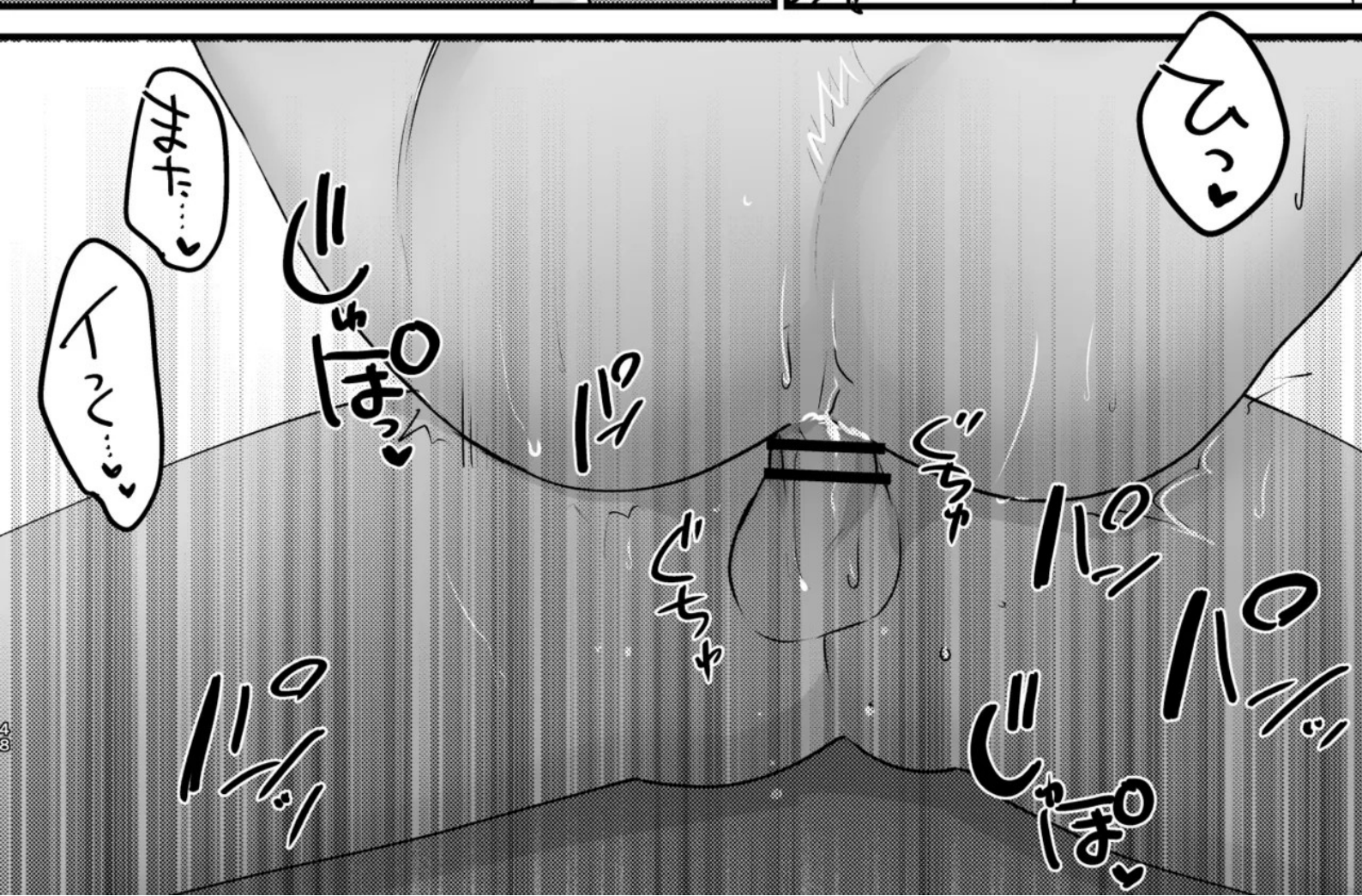
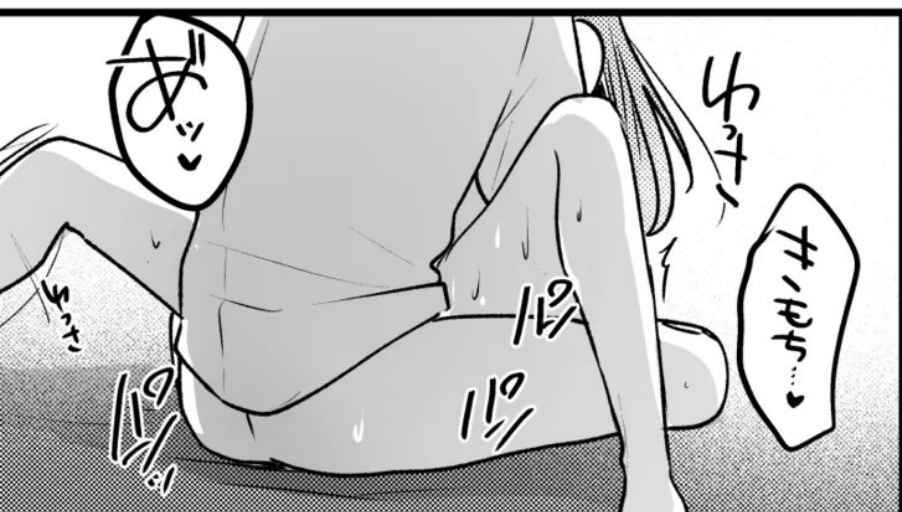
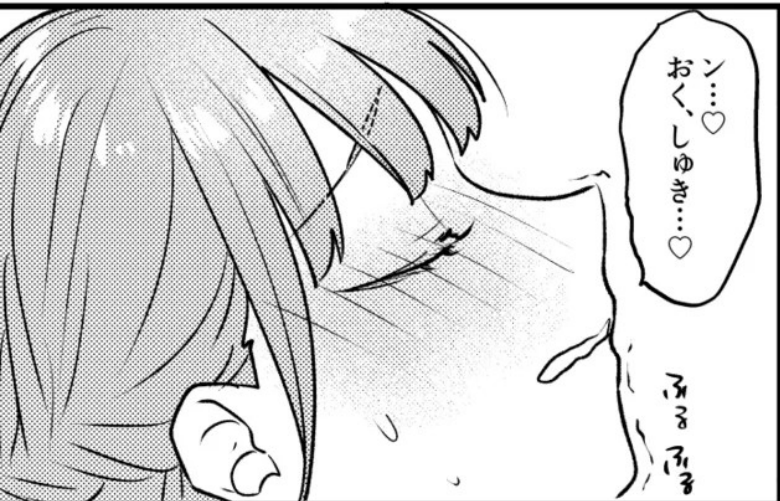
や...

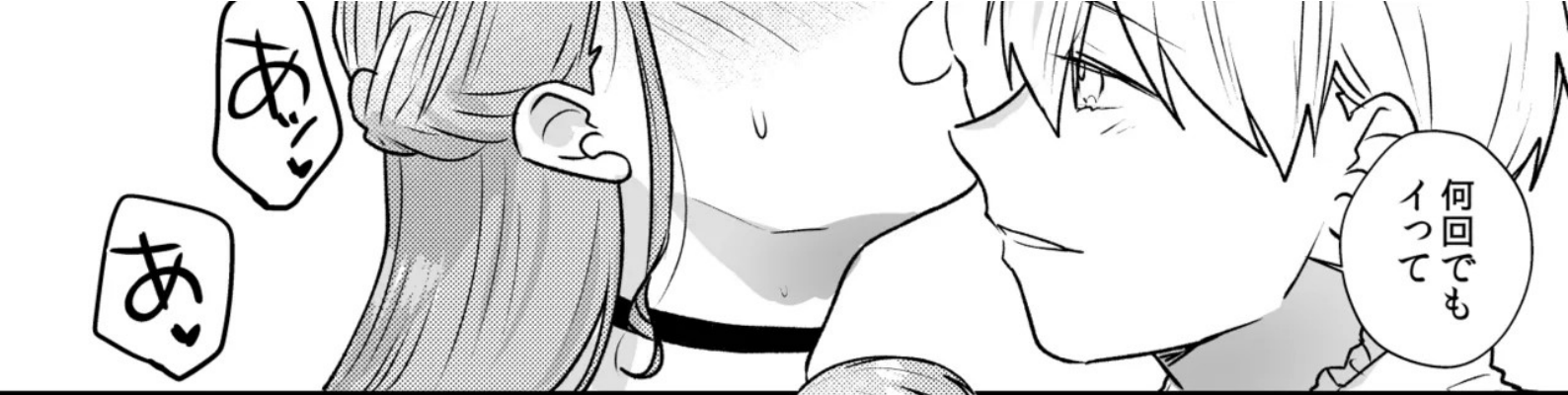
ま

深...  
♡

K

ん





何回でも  
イって

あ



ズ  
ツ  
...

ビ  
ル

じ

じ

ビ  
ル



やっ...  
もうイきたくな

このまま  
イかされ続けたら  
死んじやう...♡

舞花  
かわいい



え？

何言って…

私はここに  
いるじゃないですか

全部  
教えてあげるよ

僕にはクレアという  
婚約者がいた

僕には勿体ない  
くらい完璧な  
女性だった

その日に戻ると  
言い残した両親は  
二度と戻ってこなかった

クレアとの約束が  
あったから僕は  
家に残った

ある日  
当時の領主だった父が  
王都に招集され  
母も一緒に出掛けた

帰宅途中、馬車が敵対勢力に  
襲撃されたらしい



あの時から  
彼女だけが僕の  
世界の全てになった



一人になった僕の  
唯一の支えは  
クシアだけだった

親身になって  
くれるクシアを  
ますます好きに  
なっていた



それから暫くして  
彼女が病死した

少し前から  
持病が悪化  
していたらしい

どうしても病気の  
事が伝えられなかった  
のだと言われた



これだ…



僕は彼女を  
蘇らせる術を  
探し始めた



その後周囲から  
何度も見合いを  
持ち掛けられたが

彼女以外を好きに  
なる事なんて  
できない

入る事を  
禁じられていた地下室は  
錬金術師の工房だった

そこで知ったんだ

人造人間：  
ホムンクルスの  
製造方法を

本格的に錬金術の  
研究を始める前に  
使用人は全員解雇した


外部の人間に  
秘密を見られたら

そいつらは捕まえて  
地下に放りこんだ

僕は目的の為に  
それ以外の全てを  
切り捨て  
錬金術に没頭した


…完成だ

歳月が流れ、  
ようやく形になった  
ホムンクルスは  
ただの器だった



何度やっても  
知能のない器しか  
できなかった

文献を漁るうちに  
ホームクルスに記憶と  
それに付随する人格を  
植え付けられないかと  
考えた




でも当のクレアは  
この世に居ない



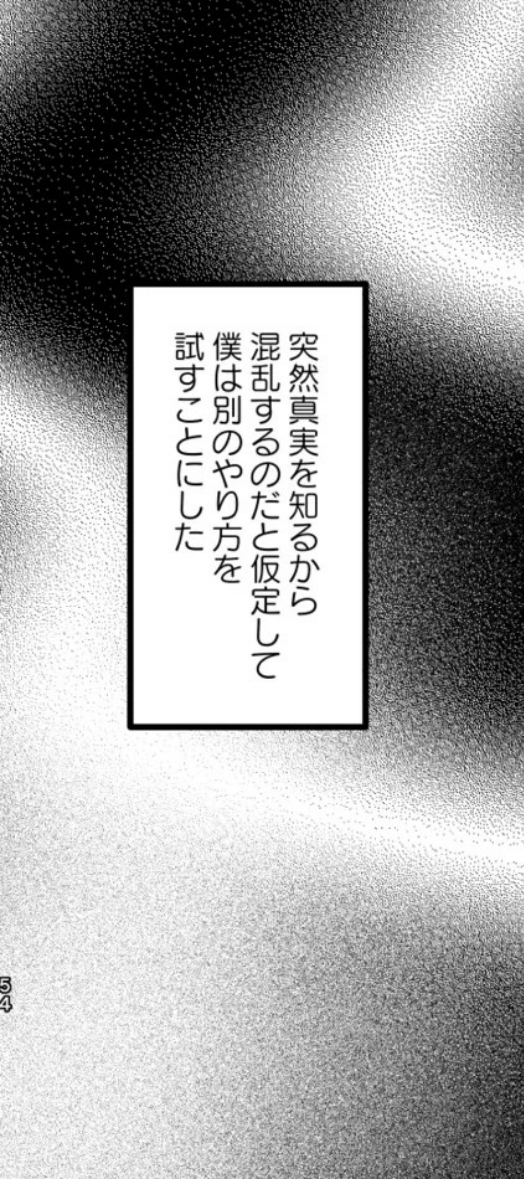
だから僕は

僕の中の  
クレアの記憶を抽出し  
ホームクルスに  
与えた



始めはうまく  
いっているように  
見えた

しかし次第に余計な  
ことまで思い出して  
しまうらしい



突然真実を知るから  
混乱するのだと仮定して  
僕は別のやり方を  
試すことにした

自分が造られた  
存在だと知った彼女達は  
混乱し、最終的には死んでしまう



この世界の事を  
知らない方が  
都合がよかったから

記憶を拝借する  
のに異世界の人間を  
呼び寄せた

だから君は自分を  
異世界から来た  
存在だと  
思い込んでいる



今回は  
僕から移す記憶を  
クレアを形成  
できる最低限の  
量にして

それから更に  
もう一つの  
記憶で上書きした



別の人格から  
俯瞰する形で  
真実を認識させる

かなり実験的な  
試みだったけど  
うまくいった  
みたいだね

今の段階で  
発狂しなければ  
大丈夫だろう

…うそ



嘘じゃない

藤井舞花は  
君の記憶の本当の  
持ち主の名前だ

でもこれから  
ゆっくと  
時間をかけて  
クレアがでてる  
はずだ

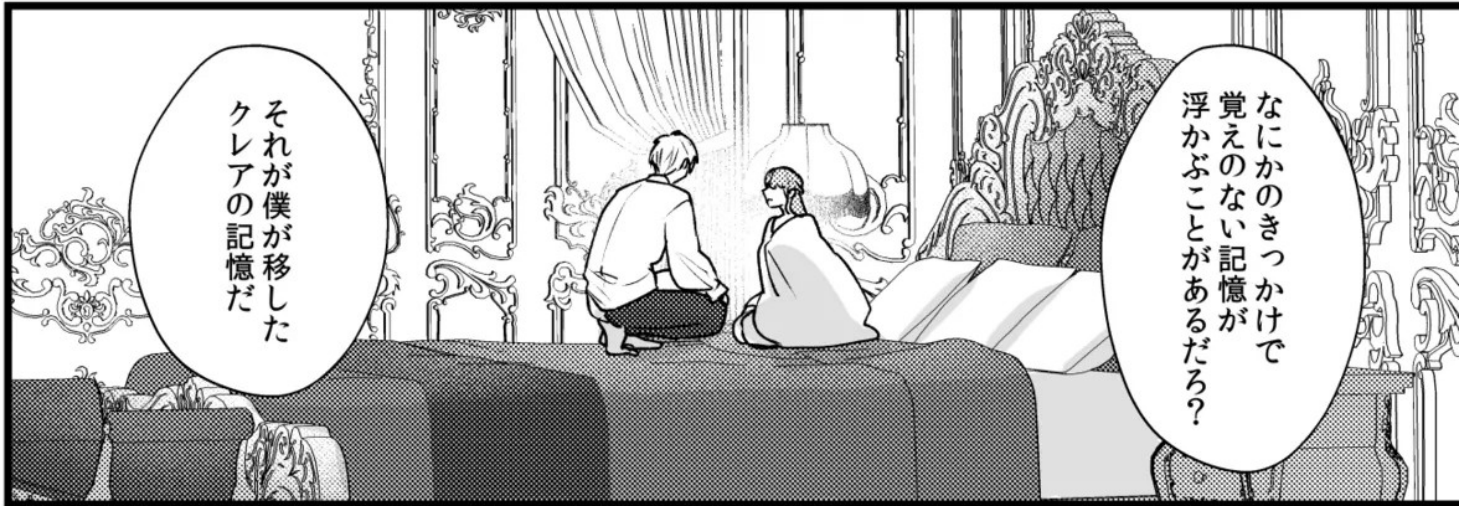


元の世界での  
家族や友達との  
鮮明な記憶だつて  
あるのに

私が造られた  
存在だなんて  
ありえない…



うそ…



それが僕が移した  
クレアの記憶だ

なにかのきつかけで  
覚えのない記憶が  
浮かぶことがあるだろ？



私を元の世界に  
帰して！



嘘…ッ！

嫌…  
訳が分からない…！



どこへ  
帰るといふの？

君があちらへ  
行ったって

君の  
居場所なんて  
ないんだよ？



君は僕だけを  
求めて  
頼ればいい

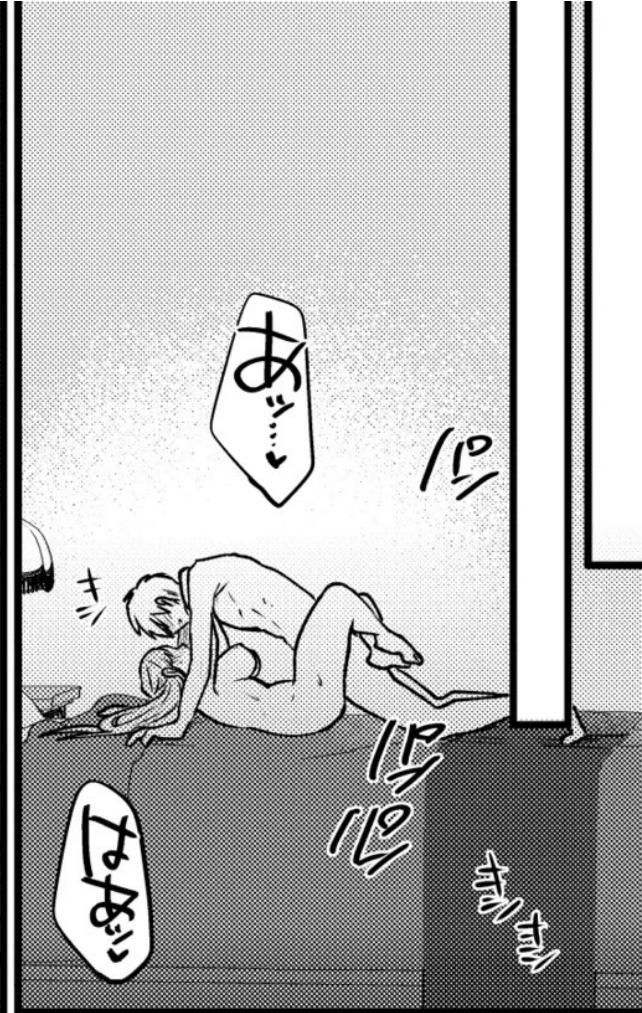
ここは君が唯一  
安全に、幸せに暮らせる  
鳥籠なんだから

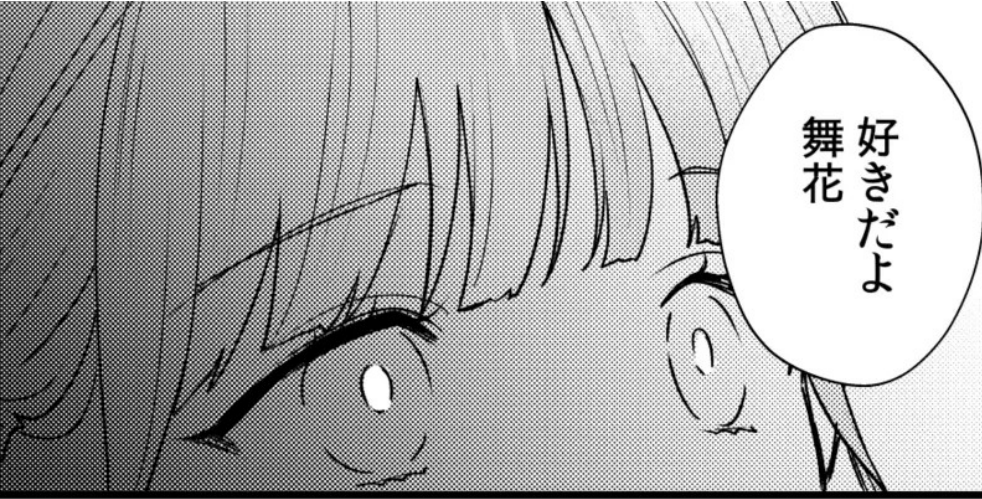


悪い冗談  
でしょ…？

君の居場所は  
ここにしかない

ホムンクルスは  
外の世界では  
生きられないんだ





今回の君は  
今までで最高の出来だ

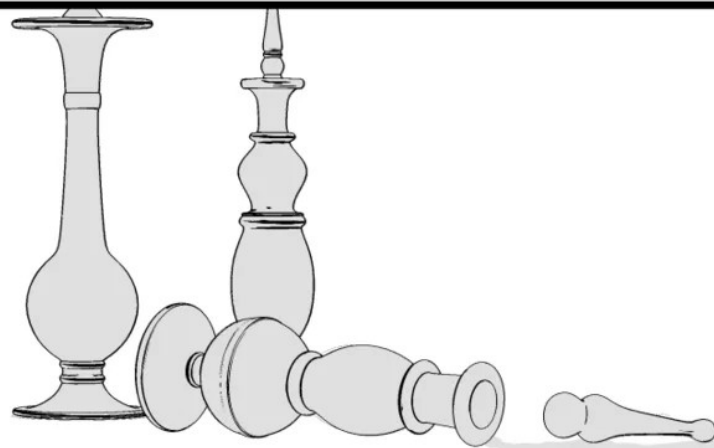
真実を知った後は  
しばらく取り乱して  
いたけど



あれから毎日君を抱いて



まずは快樂で懐柔した



それから記憶を徐々に  
クシアのものに上書きする  
手助けをしてやったが  
上手くいっているようだ

老いる事のない  
ホムンクルスは  
外的要因以外で  
死ぬことはない

このままだと  
先に死ぬのは  
僕だろうな

賢者の石の研究をして  
不老不死の靈藥を作るか

それが無理なら  
僕自身もホムンクルスに  
なろう

それならずっと  
一緒に居られる  
君も寂しくないだろう



ただ側に  
居てくれる事だけを  
望んでいたのに

欲しかったのは  
そんな囁かな  
幸せだけだったのに

……よ  
よしくね

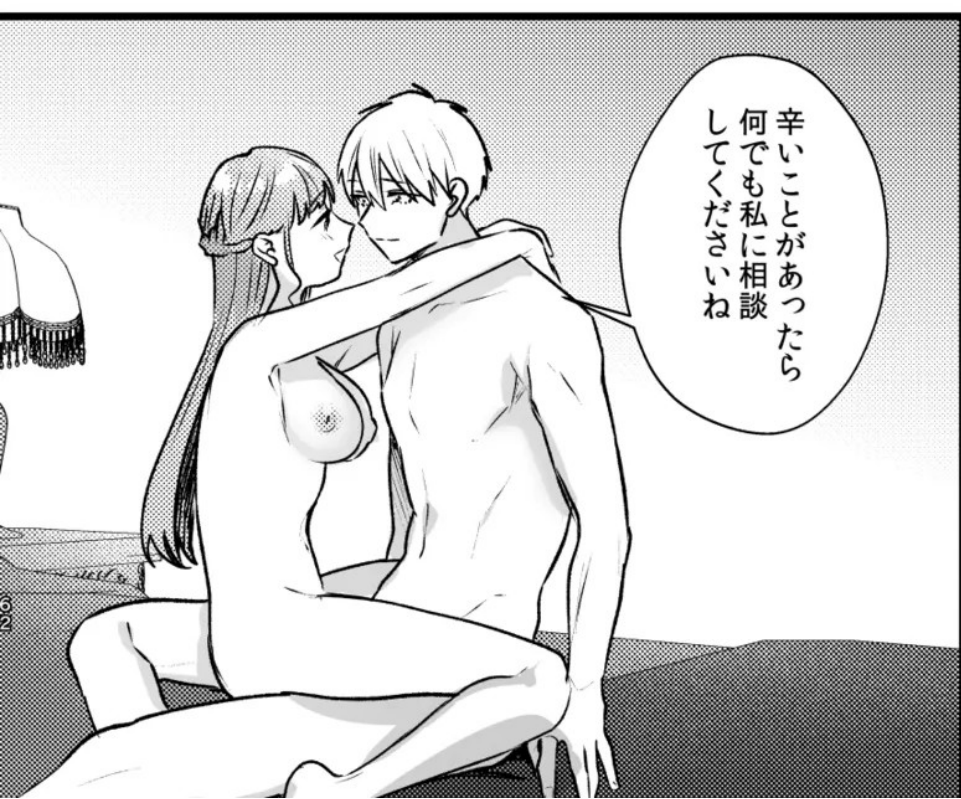
どうして  
ごうなって  
しまったんだろう



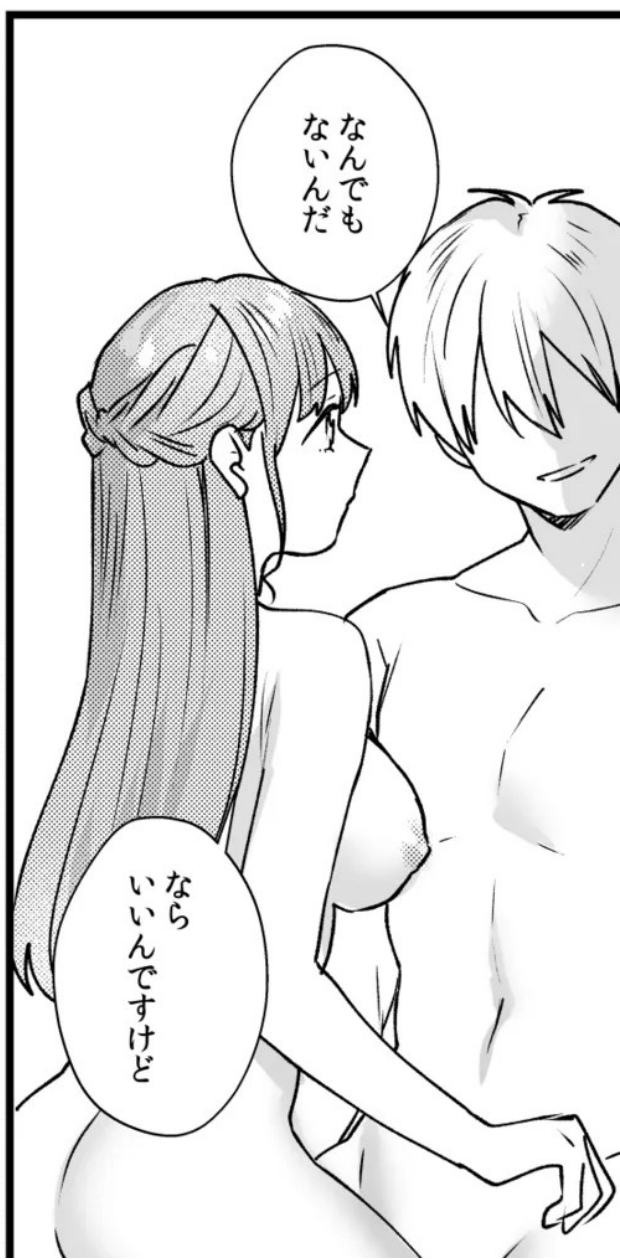
アツシユ?  
何故泣いて  
いるんですか?

目的の為に  
他のすべてを  
切り捨てて

その結果、研究は  
成功したというのに  
満たされることの  
ない感情が邪魔だ

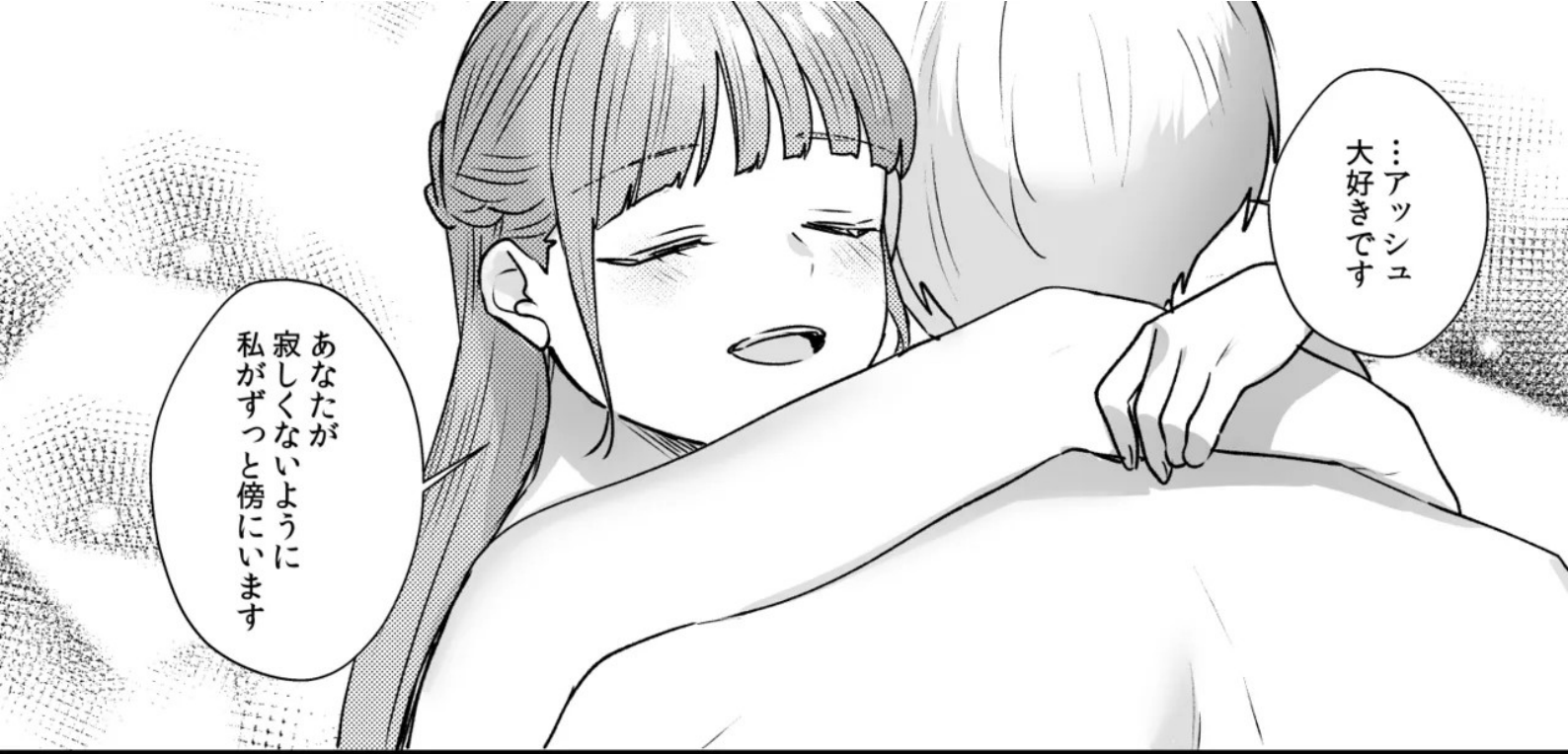


辛いことがあつたら  
何でも私に相談  
してくださいね



なんでも  
ないんだ

なら  
いいんですけど



ミ  
ア  
ッ  
シ  
ユ  
大  
好  
き  
で  
す

あ  
な  
た  
が  
寂  
し  
く  
な  
い  
よ  
う  
に  
私  
が  
ず  
つ  
と  
傍  
に  
い  
ま  
す



本  
当  
は  
わ  
か  
っ  
て  
い  
る

僕  
も  
だ  
よ  
ず  
つ  
と  
一  
緒  
だ

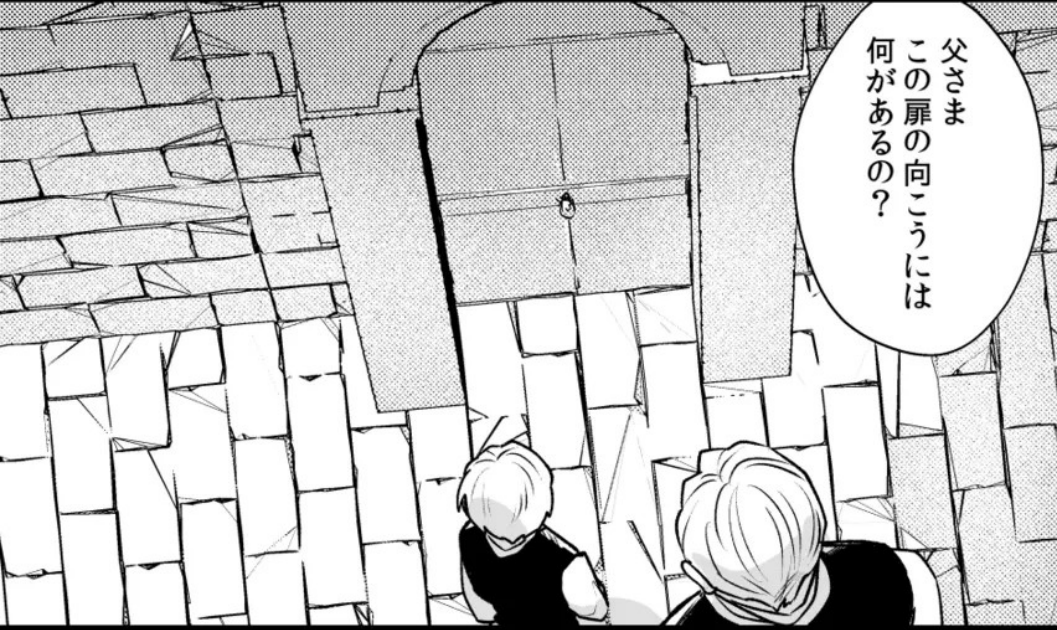
ど  
ん  
な  
に  
研  
究  
を  
重  
ね  
て  
君  
に  
そ  
つ  
く  
り  
な  
ホ  
ム  
ン  
ク  
ル  
ス  
を  
作  
っ  
た  
つ  
て  
本  
当  
の  
君  
に  
は  
会  
え  
な  
い  
こ  
と  
も

だ  
か  
ら  
こ  
の  
渴  
き  
が  
満  
た  
さ  
れ  
る  
こ  
と  
は  
永  
遠  
に  
な  
い  
こ  
と  
も

それでも僕はホムンクルスに縋るしかない  
この先もずっと…



アツシユ!



父さま  
この扉の向こうには  
何があるの？



地下には入るなど  
言っただろう

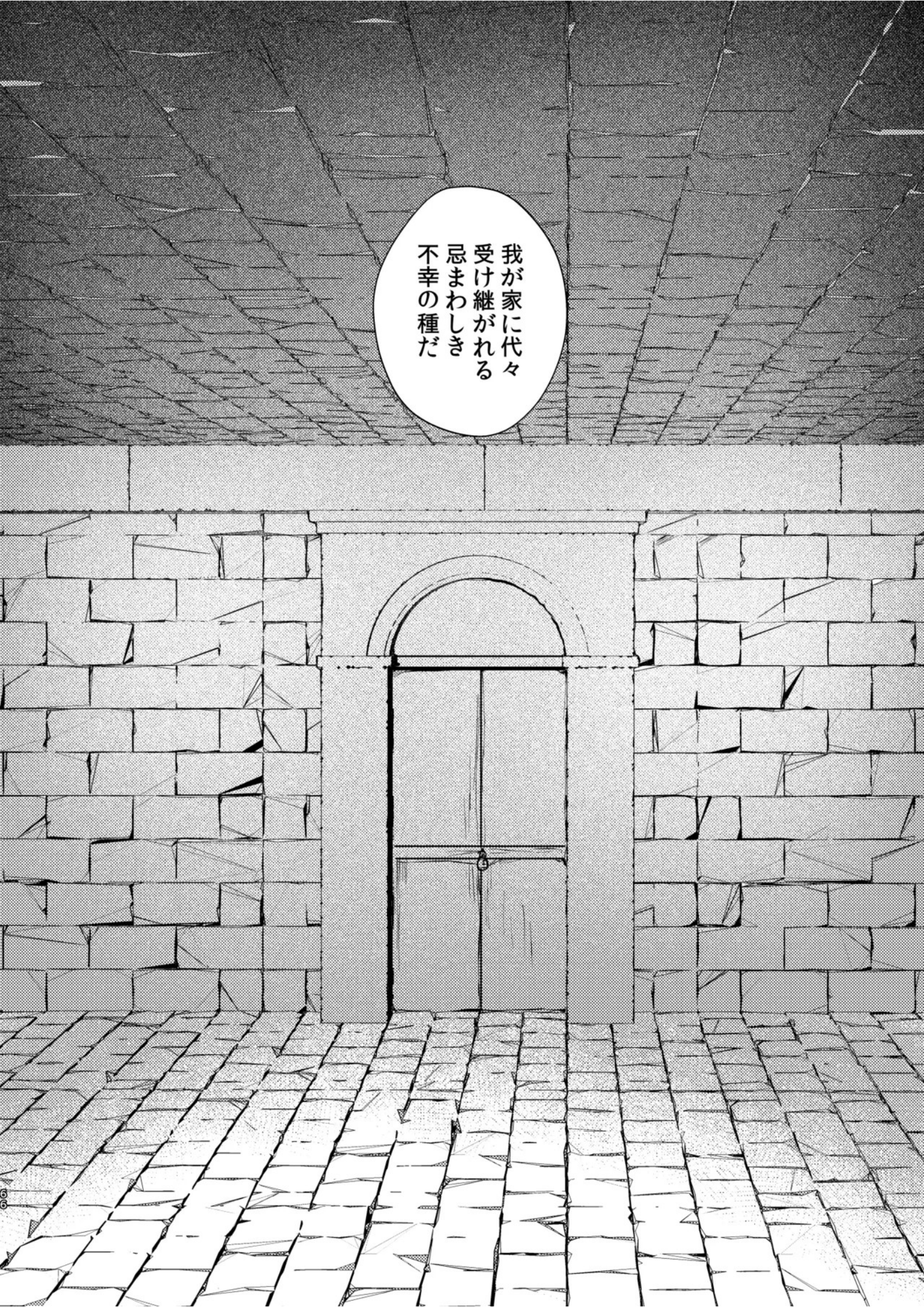
ごご…  
ごめんなさい



でもそこに  
あるものには手を  
出してはいけないよ



お前が当主になった  
時に教えてやるさ



我が家に代々  
受け継がれる  
忌まわしき  
不幸の種だ



とある領主の執着愛の果て

2021.12

takanagohan/高菜しお

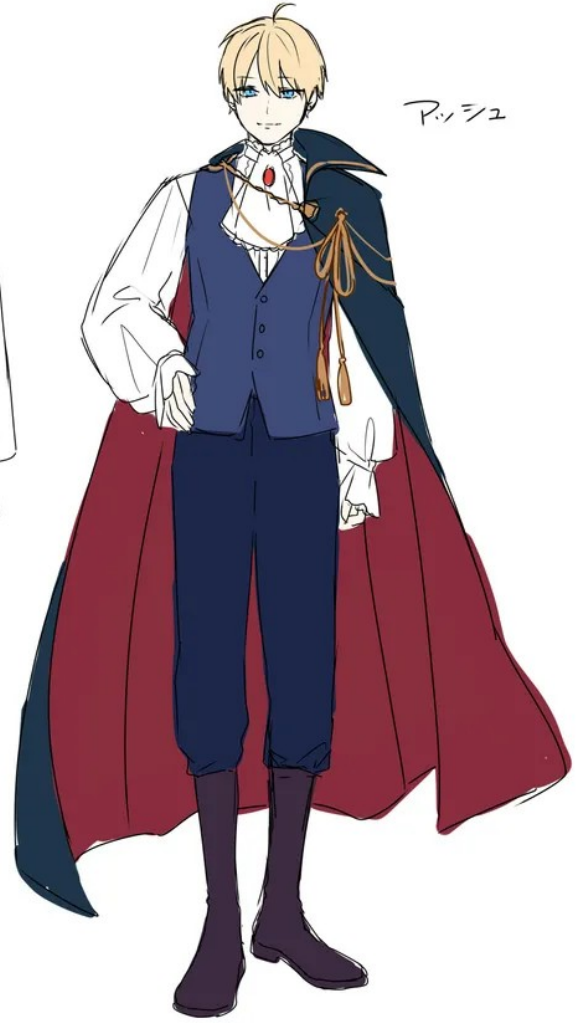
[pixiv/73809908](https://www.pixiv.net/member/entry/73809908) [Twitter/@tak\\_a\\_shi\\_o](https://twitter.com/tak_a_shi_o)

錬金術や強い執着ネタが好きなので楽しく描けました。  
ここまでご覧いただきありがとうございます。

次作の進捗や落書きなどをツイートしているので  
よければTwitterフォローしていただけると嬉しいです。



藤井舞花(19)  
好大生



P.172